

地域交流センター通信 29

March 2018, Volume 29

都留文科大学地域交流研究センターとは？

地域交流研究センターでは、地域に根ざし地域と共同した活動を推進し、つぎのような取り組みをおこないます。

- 1) 地域交流に関するプロジェクトの推進
- 2) 学校の先生方などの教育相談
- 3) 地域のニーズに応えた貢献活動
- 4) さまざまな地域交流の連携の推進



『地域交流センター通信』
を振り返る

'18.2.12.

題字 黒部行子

絵 成瀬洋平（本学卒業生）

『地域交流センター通信』を振り返る

2003年、本学に地域交流研究センターが発足しました。その活動を記録として残し、できる限り多くのかたがたに参加していただきながら交流と共感の輪を広げていこうという目的で作られたのが『地域交流センター通信』です。2003年5月に第1号が創刊され2017年度で28号を発刊しました。

初代センター長だった今泉吉晴さん(都留文科大学名誉教授)は、創刊号の巻頭で、「地域交流研究センターにかける期待」と題して「私たちは、大学と地域は交流することでお互いに得るものがある、と考えます。大学も、地域交流によって得るものがこれからの大学になくはならないもの、と考えたからこそ、センターを発足させたのです。」と述べています。また初代編集長の畑潤さん(都留文科大学名誉教授)は3・4合併号の編集後記に「この〈通信〉は、地域交流研究センターの生命というべきものです。その編集をとおして、地域と大学、学生と教職員、専門諸科学、都留文科大学と全国各地あるいは世界、など多面的な質の交流・共同を生みだしていこうと志しております。」と記しました。地域交流研究センターが発足して15年が経過しました。その間の取り組みの一つひとつがかたがたに支えられていたかは、『地域交流センター通信』の目次と540名にのぼる執筆者名からも見てとれます。

来年度から本学は2学部6学科の体制となり、地域交流研究センターの役割はますます大きくなるでしょう。そこで29号では、『地域交流センター通信』のこれまでを振り返り、多様な諸実践と思想を受け継ぎ今後を見通す礎となるよう創刊号からの目次と執筆者名の一覧を整理しました。次年度は新しいかたちで地域との交流をさらに実り多いものにしていくスタートとしたいと思います。(編集長 北垣憲仁)



1号 2003年5月31日発行



2号 2003年11月30日発行



3・4合併号 2004年3月24日発行



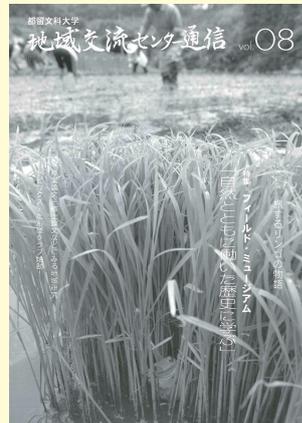
5号 2004年7月28日発行



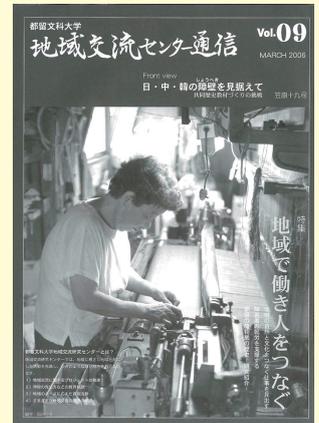
6号 2004年12月22日発行



7号 2005年3月24日発行



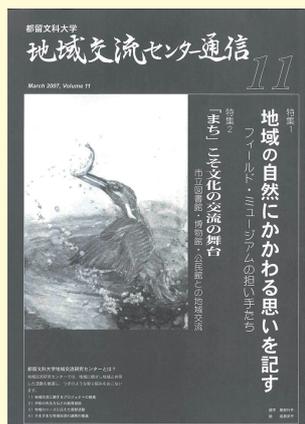
8号 2005年8月1日発行



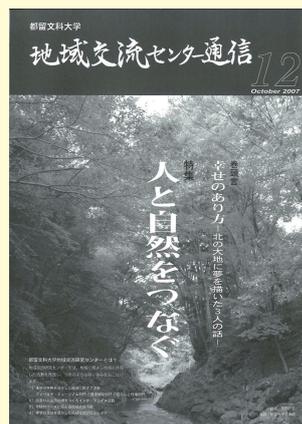
9号 2006年3月24日発行



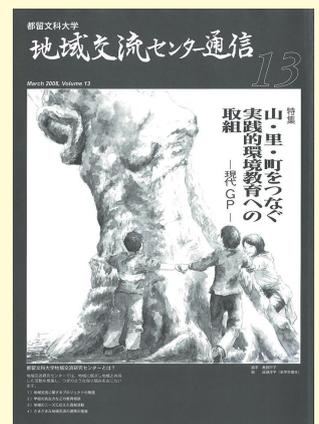
10号 2006年10月25日発行



11号 2007年3月23日発行



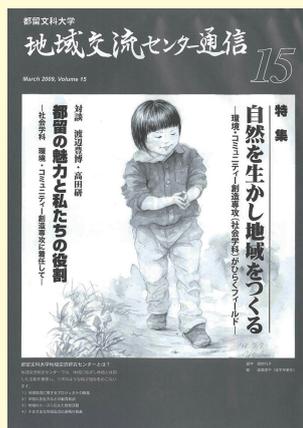
12号 2007年10月24日発行



13号 2008年3月24日発行



14号 2008年12月10日発行



15号 2009年3月18日発行



16号 2009年12月16日発行



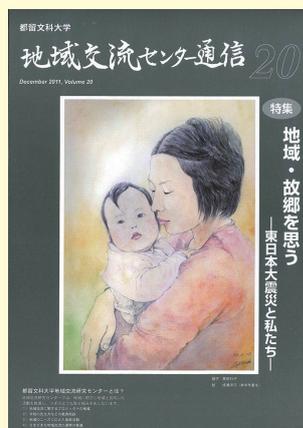
17号 2010年3月19日発行



18号 2010年12月27日発行



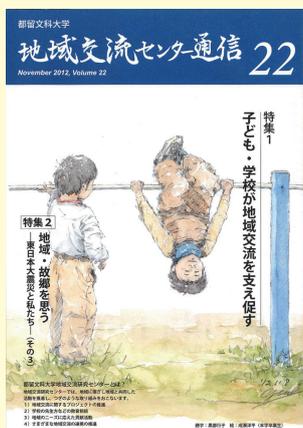
19号 2011年3月18日発行



20号 2011年12月14日発行



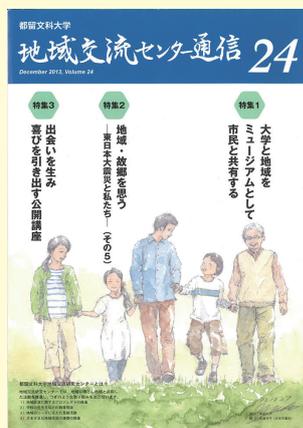
21号 2012年3月13日発行



22号 2012年11月21日発行



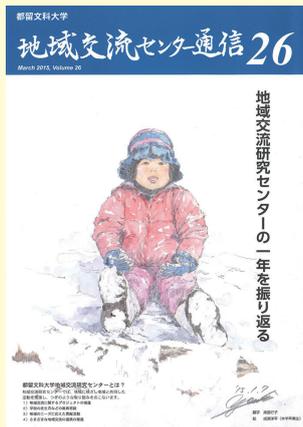
23号 2013年3月18日発行



24号 2013年12月4日発行



25号 2014年3月18日発行



26号 2015年3月16日発行



27号 2016年3月14日発行



28号 2017年3月17日発行

絵・成瀬洋平 (本学卒業生)
 題字・黒部行子
 裏表紙口ゴ
 清水 亮 (本学卒業生)

*なお、『地域交流センター通信』のバックナンバーは、大学のホームページの「附属機関」から「地域交流研究センター」にアクセスしていただければ全号が閲覧できます。



センター長あいさつ

地域交流研究センターにかかる期待

今泉吉晴 2-3

地域交流研究センターとは何か

森 博俊
絵:成瀬洋平 4-5

特集:地域交流研究センターの出発

フィールド・ミュージアム研究プロジェクト

地域は「フィールド・ミュージアム」

北垣憲仁
写真:小口尚良 6-7

地域総合学習開発プロジェクト

はじめた、総合的な学習の時間

文・写真:佐藤 隆 8-9

甲斐の文化活動研究プロジェクト

甲斐を地盤とした文学活動

楠本六男
写真:ミュージアム都留 10-11

地域貢献活動

高等学校と大学の連携

「高等学校と大学の連携のありかたを広くさぐる」

畑 潤
絵:成瀬洋平
写真・感想資料:県立桂高校 12-13
13

高校生や大学生はどう感じたか。体験後の感想から

教育相談活動

困難をかかえる子どもと向き合う力に

担当:河村茂雄・田中孝彦・森博俊・粕谷貴志 14

「山梨の魅力メッセンジャー」講座

都留を学ぶ・山梨を学ぶ

担当:千葉立也
写真:北垣憲仁 15



巻頭文 〈交流〉あるいは〈ネットワーク〉ということ

金子 博
写真：北垣憲仁 2-3

特集:ムササビの住むキャンパス—フィールド・ミュージアムの夢

本物との出会いがある プロジェクト担当：今泉吉晴・北垣憲仁 4-5

感性をきたえる
 開花の感動を楽しむ 本田深雪 6
 ムササビ観察で学んだ「本物」と出会う喜び 工藤真純 6-7
 散歩こそが究極のフィールド・ミュージアムの楽しみ 今泉吉晴
 写真：北垣憲仁 7

地域の知恵に学ぶ

作業道の復活 北垣憲仁 8
 果樹園は出会いの宝庫 北垣憲仁 8
 水掛菜に学ぶ地域の知恵 北垣憲仁 9
 異文化の交流が生み出す新しい味 北垣憲仁 9

交流をはぐくむ

野外博物館をつくる夢 小口尚良 10
 地域と深く結びつく博物館をめざして 佐藤 洋 10
 森と人をむすぶために 加藤春樹 11
 総合学習で学ぶ「ドングリと森の小動物の世界」 北垣憲仁 11
 交流が生みだした絵本シリーズ 北垣憲仁 11
 自然との交流を楽しむ 北垣憲仁 11

情報を記録し、発信する

編集を通して知った新しい交流のかたち 高橋ちひろ 12
 地域にこそ花開く本当の博物館 今泉吉晴 13

半期の活動を振り返って

地域総合学習開発プロジェクト
 「総合的な学習の時間」のすすめ 文：佐藤 隆
 写真：佐藤 洋 14

甲斐の文化活動研究プロジェクト
 「俳句の館・風生庵」落成と「素堂とその系流」展 楠本六男
 写真：北垣憲仁 15

高等学校と大学の連携
 地元の高校との連携事業進む 文：畑 潤
 写真：猪俣春彦 16

教育相談活動
 学校現場の問題をともに考える 文・写真：粕谷貴志 17
 山梨の魅力メッセンジャー認定講座
 地域に根ざして学ぶ 文・写真：千葉立也 18

トピックス

盛況だった夏の現職教育講座 文・写真：鶴田清司 19
 学習チューターの活動始まる 文：森 博俊 19
 LD・ADHD 問題での公開教育講座（全三回）の開催 19



巻頭言 地域に根ざし、世界とつながる

文：田中孝彦
写真：庄井良信 2-3

特集1:地域に根ざす教育の創造へ

地域人間発達援助活動の創造—「教育相談部門」の近未来—	森 博俊	4-5
「子ども理解のカンファレンス」の試みから	中込百合	6-7
地域で子どもを支える学習チューターの動き	川橋保夫	8-9
現場教師が求める学習・研修の質—現職教員教育講座とその受講生の声から	小坂文則	10-11
地域教育相談室の一年を振り返って	粕谷真志	12-13
都留文科大学の新しい動きに期待する	勝俣武男	14-15

特集2:甲斐の文化の香り

甲州俳壇の見渡し	楠本六男	16-19
地域に根ざす大学と博物館	写真提供：ミュージアム都留	16-19
多くの方に親しまれる博物館を目指して	楠本六男 写真：北垣憲仁	20-21
	伊藤理恵 写真：伊藤理恵	22-23

一年を振り返って

相談室の一年間におもう	河村茂雄	24
センター事務局の一年	園田一二	24
「総合的な学習の時間」をどう生かすか 地域総合学習開発プロジェクトの一年を振り返って	佐藤 隆	25

地域の声

地域交流研究センターに寄せる期待	森嶋美子	26
地域教育推進の立場から	浅沼茂夫	26

トピックス

地域に開かれた図書館を一新図書館いよいよオープン—	山本安夫	27
---------------------------	------	----

編集後記

畑 潤 27



巻頭言 地域交流研究センターはソローの大学のよう

今泉吉晴 2-3

特集1:地域活動とそれを支える人びと

- 小口尚良さん（谷村第二小学校教諭）が取り組む地域活動の紹介 4-5
 大学の特徴を活かした「うら山観察会」 太田藍乃 6
 ムササビを好きになった観察会 日向良和 6-7
 広がる小口さんの活動
 取材・構成：北垣憲仁・畠田真奈（社会学科4年） 絵：成瀬洋平（社会学科4年） 写真：小口尚良

特集2:まちづくりの活動と大学

- 地域の魅力を発見する
 見方の変化をせまる二つのしかけ 水谷衣里 8
 水と生きる・地域で生きる
 みずまちの実践から 中村伸也 9
 まちづくり市民活動と都留文科大学の関わり 千葉立也 10
 緑で都市を浸食し、「都留の森」をつくろう
 まちの格をあげる手っ取り早い4つの方法 前田昭彦 11

地域の声

- 学ぶということ
 都留文科大学と県立桂高等学校との交流について 猪俣春彦 12
 「第三回未来館IT講座」の開催にあたって 小林 高 12-13
 自分と会おうー世界と会おう 分田順子 13
 写真：猪俣春彦

トピックス

- 家具リサイクル 日向良和 14
 「在宅ケアを支える会」の活動 小石沢栄子 14
 大江健三郎氏の記念講演に寄せて
 「あなたは、忘れるために本を読んでいるのか？」 山崎 亘 15

読者の声

- 足立恵氏（本学卒業生，長野県在住） 大田政男氏（大東文化大学教授） 15

裏表紙

- 編集後記 畑 潤 16
 センター掲示板 都留文科大学と桂高校との研究交流を開催 16



巻頭言 世界と子ども

大田 堯 2-3

特集:「つる子どもまつり」の歴史に学ぶ

4

三五回目を迎えた「つる子どもまつり」

小林愛奈 5

「つる子どもまつり」を支えて ―学生たちとの交流の年月を思う―

遠藤静江 6-7

「つる子どもまつり」の喜びとこれからの課題

坂口隆子 7-8

全国学生児童文化運動の歩みと都留文科大学児童文化研究部

中村拓郎 10

児文研という活動を通して

廣井良徳 11

「つる子どもまつり」への協賛金のこと

佐藤 隆 11

私と「つる子どもまつり」

望月育代 12

写真:望月育代

フィールド・ミュージアム

「ムササビの森づくり共同事業」はじまる

担当:今泉吉晴・北垣憲仁 14-15

親しんでもらえる森づくり

磯崎由香 15

新たな発見がある森の作業

神戸絵里子 15

附属図書館ビオトープ

生きものとの交流を楽しむ拠点づくり

北垣憲仁 16

親しまれるビオトープを目指して

羽野 幸 17

ビオトープは学びの場

加藤宏明 17

平成16年度都留文科大学現職教員教育講座 (2004年7月29日~31日)

教育実践は子どもの声に耳を傾けることから

福永美奈 18

子ども理解を深めていく協議(カンファレンス)の大切さ

中村恵子 19

地域の声

「地域交流センター通信」を読んで

桂高校生の感想より

20

トピックス

青年期の教育実践を語り合う

高校教諭と大学教員との合同研究会

西本勝美 21

十九年目を迎えた都留音楽祭

有村祐輔 22

読者の声

佐藤一子氏(東京大学大学院教授)・大澤裕子氏(本学卒業生・東京都在住)

浦上千賀子氏(卒業生・長崎県諫早市在住)

23

編集後記・センター掲示板

畑 潤 24



巻頭言 「交流」ということを考える	アカ族へのつきぬ想い	嶋田鋭二	2-3
特集1:学生・留学生たちの居住生活			4
都留の学生アパート事情		松本孝巳	5-6
賄い付き共同下宿「輩」の誕生	「輩」に住む	小暮祐介	7
大家さんと仲良し	一軒家の共同生活	本田深雪	8
住まいの交流の場をつくる	Work-Waku 都留のつる小屋づくり	岩倉里珠	9
共同下宿二代目の大家さんが語る		杉田美司・利枝夫妻	10
文大生活の醍醐味		吉田晴彦	11
留学生と過ごして		小林文子	12
		写真:小林文子	
市民に支えられる留学生たち	本学留学制度の歴史と私の期待	鳥居明雄	13
		写真:小林文子	
ホストファミリーとして留学生を迎える		小俣きみ江	14
市民との出会い	私の留学生活での戸惑いと発見	郭燦飛	15
フィールド・ミュージアム		担当:今泉吉晴・北垣憲仁	
「ムササビの森」づくり共同作業に参加して		矢羽正子	16
水掛菜栽培の知恵に学ぶ		工藤詩織	17
フィールド・ミュージアム(展示活動について)			18
附属図書館ビオトープ	はるかなとしつき	宇佐美千里	19
特集2:卒業論文・修士論文にみる地域研究			
都留市における高校生の「人生イメージ」と学校教育の課題に関する研究			
執筆者:小坂文則 執筆年度:平成16年度 大学院 臨床教育実践学専攻 指導教員:田中孝彦			20-23
検索様式が自伝的記憶に及ぼす影響—高齢者を対象として—			
執筆者:阿波瞳、小俣芳恵、鶴田望 執筆年度:平成15年度 初等教育学科心理臨床専攻 指導教員:高田理孝			20-23
大月空襲についての試論			
執筆者:深澤真 執筆年度:平成14年度 大学院 社会学地域社会研究専攻 指導教員:高岡裕之			20-23
グルメ食痕から始まるネズミとの関わり			
執筆者:本田深雪 執筆年度:平成16年度 社会学科環境生態論ゼミ 指導教員:今泉吉晴			20-23
介護保険の理念と現実—生活保障法理からの考察と展開—			
執筆者:鳥沢文彦 執筆年度:2001年度 社会学科 指導教員:横田力			20-23
平和博物館のあり方—平和博物館に見る日中歴史の比較			
執筆者:片山恵太 執筆年度:平成16年度 大学院比較文化専攻 指導教員:笠原十九司			20-23
「苗字 稲城攷」			
執筆者:稲城和人 執筆年度:平成16年度 比較文化学科 指導教員:山本芳美			20-23
徳永寿美子論—児童文学史の視点から			
執筆者:齊藤俊光 執筆年度:平成16年度 国文学科国語教育学ゼミ 指導教員:牛山恵			20-23
読者の感想		石松香代子	24
トピックス			
地域交流・地域交流フォーラムへの期待(第一回「地域交流フォーラム」アンケート抜粋)			24
まちづくりと都留文科大学の関わり		清水絹代	25
「地域交流センター通信」に思うこと(山口県立大学の視察)		石川正一	
		写真:石川正一	26
都留文科大学大学院社会学地域社会研究専攻・都留文科大学地域社会学会共催 堀尾輝久氏の公演			
「東京の状況から、憲法・教育基本法問題を考える」を聞いて		小橋哲也	26
喫茶店「ウィング」と「社会調査・地域調査」		榎本 環	27
情報未来館 IT 講座(2005年2月4日)			
田中夏子氏(本学社会学科)講演会の感想		写真提供:情報未来館	27
編集後記		畑 潤	28



FIELD GUIDE BOOK				
『空中モグラあらわる』	今泉吉晴著	岩波ジュニア新書	7	
『カワネズミの谷』	北垣憲仁著	フレーベル館	8	
『野ねずみの森』	今泉吉晴著	フレーベル館	9	
『むささびのおやこ』	今泉吉晴著	新日本出版社	10	
『うら山かべ新聞』			11	
『地域の中で教育を問う』	大田堯著	新評論	12	
『生涯学習の新たな地平』	島田修一編	国土社	13	
『ヘンリー フィッチバーグへ いく』				
『ヘンリー いえをたてる』	D.B. ジョンソン著	福音館書店	15	
『ヘンリー やまにのぼる』	ヘンリー・D・ソロー著			
『ウォールデン 森の生活』	今泉吉晴訳	小学館	15	
『シートン』	今泉吉晴著	福音館書店	15	
『シートン動物記』	アーネスト・トンプソン・シートン著	今泉吉晴訳	福音館書店	15

巻頭言 旅するリンゴの物語

分田順子 2-3

特集:フィールド・ミュージアム「自然とともに働いた歴史に学ぶ」

森嶋基進に共感するフィールド・ミュージアム

自然とともに働いた歴史に学ぶ

私たちがくらす都留と言われる地域は、なぜ、これほど自然に近いのでしょうか？

今泉吉晴 4-6

森がつなぐフィールド・ミュージアムと図書館

ヒメグルミの木が枝をさしのべる閲覧室 自然の楽しみは小さくて大きい。小さな連携をかさねたい。

青池恵津子 7

思いがけないラッキーな気づき

生きものとの出会いをつくる活動

想像とは違った田植え
自然との一体感を味わう
果樹園は私の楽園
一瞬の出会いを楽しむ観察会

伊藤 希 8
豊川紗衣子 8
深澤麻夕 9
前田恵子 9

自然と対話できる喜び

私を育てたフィールド・ミュージアム

「ムササビの森」での出会い

参加者と育てる観察会

佐藤 洋 10
井川絵美 11
小口尚良 11

フィールド・ミュージアムを支える

『フィールド・ノート』は形のない博物館

「文化を創り、育てる」フィールド・ノート

価値ある自然の楽しみと発見

磯崎由香 12
中村 操 13
今泉吉晴 14

卒業論文・修士論文などにみる地域研究

LD 児の親へのサポート

執筆者：杉本佳子 2004 年度卒業論文 初等教育学科（障害児教育ゼミ） 指導教員：森博俊

16-18

パレスチナと民族衣装—紛争がもたらした変化

執筆者：穴田絵莉子 2004 年度卒業論文 比較文化学科（欧米文化第 2 演習） 指導教員：分田順子

16-18

宝鉱山からみる歴史的環境保存の意義について

執筆者：生川友恒 2004 年度卒業論文 社会学科（地域経済論ゼミ） 指導教員：千葉哲也

16-18

市民主体による都市河川環境問題の取り組み—『三多摩問題研究所』の水系運動を中心に

執筆者：周蔚 2004 年度卒業論文 大学院社会学科地域社会研究専攻

指導教員：寺田良一（元本学教員、現在明治大学文学部教授）

16-18

都留文科大学の成り立ちについて

執筆者：三浦宏介 2002 年度卒業論文 社会学科（生涯学習論ゼミ） 指導教員：畑潤

16-18

1 号館前の梅の枯れ木と若い芽

都留文科大学の黎明を垣間見る 2 冊

18

二つの調査を終えて

『真鶴町のまちづくり条例とその実態』（2004 年 11 月発行）

『早川町政・実態調査報告書』（2004 年 12 月発行）

三浦宏介 19

地域に出ていく学生の姿を伝える—『地域へ出ていくガイドブック 2005』の編集と大学での授業—

武居秀樹 20
佐藤菜穂子 21

トピックス

都留とリサイクルと私

矢ヶ崎奈美 22

リサイクル活動の協力者として思うこと

田中治夫 23

若い人にもっと農業を知ってもらおう

清水政雄 24

たんぼクラブ始動！

西本勝美 25

大学生の米づくり

杉本 清 25

稲作からはじまる地域の人との交流

志茂龍太 26

初めての田植え

雨宮香織 27

都留での援農

出倉裕一 28

読者の感想 池田恒男氏（龍谷大学教授）・奥山和子氏（本学卒業生）

29

新カリキュラム「地域交流研究」がはじまる 地域交流研究と私

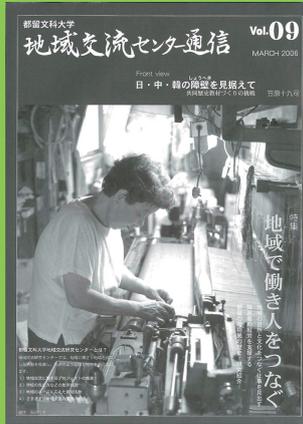
29

「地域交流研究」I・II の感想より

30

編集後記

畑 潤 32



Front view 日・中・韓の障壁を見据えて 共同歴史教材づくりの挑戦	笠原十九司	2-3	
特集:地域で働き人をつなぐ			
地域の自然と文化をつなぐ仕事を見出す			
木楽舎の“つみ木広場”と岡部工業所の“薪ストーブ・シンポジウム”	編集部・今泉吉晴	4	
たくさんのお会いをつくった小さなつみ木	青池恵津子	5	
「つみ木広場」は森と木と人をつなぐメジャー級の変化球を!	荻野雅之	6-7	
手作り薪ストーブの個性あふれる愛好者の交流をはかる 私がウォールデン池を訪れた理由	佐々木裕子	8	
自分にとっての薪ストーブ	佐々木寛章	9	
飽くなき好奇心の歴史「街かど情報 TSURU」 ～小宮正廣氏へのインタビュー～	桜井明子	10-11	
障害者の就労を支援する			
障害者の雇用をすすめるためのセミナーを開催して	野武紀之	12	
障害をもつ方々への就労支援	志村恵子	13	
軽度発達障害の人の働ける場を求めて	母親 (都留市在住)	14	
掲示板			
第二回「地域交流フォーラム」、県民コミュニティカレッジ分担講座、市民公開講座、山梨県地域教育フォーラム南都留集会、などについて	編集部	15	
都留の織物業の歴史—研究紹介—	都留の織物業の盛衰に関する研究	編集部・畑 潤	16
研究紹介	和田明子	16-17	
(織機について)	編集部=畑 潤・今泉吉晴	16-17	
シリーズ:卒業論文・修士論文にみる地域研究の紹介			
卒業論文作成として生まれた絵本『マミー』			
執筆者:平野純子 2000年度卒業論文 初等教育学科 指導教員:三井須美子 絵:森嶋なつき (当時小学5年生)		17	
【『センター通信』8号特集の続編】			
かつて文大キャンパスを一筋の川がたらぬいていた			
十日市場村絵図に描かれた二筋の川が田原の古田をうるおした 棚本安男さんに聞く		18-19	
【資料コーナー】			
地域交流研究センターの源流をたずねる 和歌森 太郎「地域社会学科」構想	編集部・畑 潤	20-21	
【フィールド・ミュージアム部門の活動報告】			
①「図書館まつり」への参加 ②附属図書館ビオトープの植樹祭開催 ③ビオトープづくり			
「図書館まつり」に参加して	成瀬洋平・西教生	22	
附属図書館ビオトープの植樹祭に参加して	鈴木正子	23	
附属図書館ビオトープの一年	羽野幸・加藤宏明	24	
都留文科大学に相応しい林へ… 一号館裏の雑木林再生の取り組み	坂田有紀子	25	
トピックス	編集部・畑 潤	26	
フィールド・ミュージアムの稲づくりに参加して	前田恵子	26	
トピックス1			
多くの人に支えられて稲刈りを終える「たんぼクラブ」の実践	権守達也	27	
トピックス2			
現職教員講座 子どもたちと深く交流していく条件整備を	板倉保秋	28	
真の子ども理解とカンファレンス(協議)を希求する	川村千恵	29	
トピックス3			
都留を繋いだ「ビクトリア合唱団&都留市合唱連盟演奏会」	清水雅彦	30	
読者の声			
森川貞夫氏 (日本体育大学教授)・松田武雄氏 (九州大学教授)・北 彰氏 (中央大学教授)			
池上理恵氏 (静岡自然を学ぶ会)・姉崎洋一氏 (北海道大学教授)・北田耕也氏 (明治大学名誉教授)			
増山 均氏 (早稲田大学教授)・佐藤 進氏 (中央大学兼任講師)・奥田泰弘氏 (中央大学教授)		31	
編集後記	畑 潤	32	



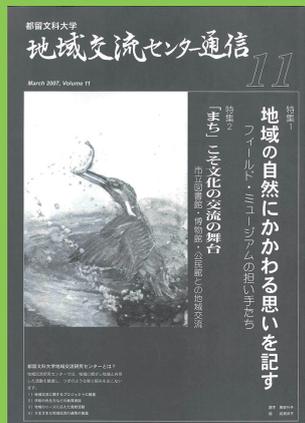
※【講座内容】

子どもの声を聴き取ること—12歳の子どもの絵本づくりから (佐藤マチ子 東京家政大学非常勤講師)
 子ども理解と援助者のあり方—カウンセラーの視点から— (筒井潤子本学講師)
 ピタゴラスの定理からはじめよう—数学者の考える数学教育— (寺川宏之本学教授)
 学力問題と総合学習の思想 (佐藤隆本学教授)
 特別支援教育と「子ども理解」の問題 (森博俊本学教授)
 フィンランドの教育・日本の教育 (田中孝彦本学教授)

【特別講座】

富士山—その美しさは期間限定—、実験授業・小学校でできる「液状化実験」(共に上杉陽本学名誉教授)

都留の地域と教育 —大学への期待—	富山克彦都留市教育長にきく	きき手：森 博俊	2-3
特集1:「地域に根ざす」ことと「世界に向き合う」こと		田中孝彦	4
フィンランドの高校生の語りから		森 由己	5
社会に支えられる安心感…フィンランドの子育て		佐藤 隆	6-7
平等の教育を求めて	スペシャル・エデュケーションの展開	森 博俊	8-9
ナラティブ・ラーニング (物語学習)	—子どもの声を聴きとる学びの構築へ	庄井良信	10-11
「地域に根ざし、世界に向き合う」教養への着目			
—カヤエニの高校生の「人生イメージ」の語りを聴いて		田中孝彦	12-13
特集2:動き出した都留市における学生アシスタント・ティーチャー (SAT) 活動			
「現場体験」が深める、学生の「子ども理解」		筒井潤子	14-15
私が気づいたこと		北村笑子	16
障害児学級の子どものとの出会い		功刀美絵	16
たった2回の経験ではあるが…		木村実希	17
悩みながらの実践		新沼由梨	17
教育現場に学生を受け入れて		村上憲司	18
SAT 前期を終えて		渡邊史江	19
平成18年度現職教員教育講座について*			
2017/8/2～4の3日間、19日に特別講義をそれぞれ開催		参加者の感想	20-21
「つみ木広場」シンポジウム～つみ木広場の体験と交流の会～		畑 潤	22
「つみ木広場」の体験会		戸村麻衣子	23
思い起こすこと		渡辺ふく代	23
檜の神様ありがとう		天野万知子	24
つみ木広場に参加して		根木直子	25
市立図書館との共催事業「自由研究ガイド」・平塚市博物館でのミニ展示			
地域交流センターと都留市立図書館・平塚市博物館との交流		文・写真：北垣憲仁	26-27
【『センター通信』8号特集「自然とともに働いた歴史に学ぶ」の続編シリーズ】			
田原は古代から生活の拠点だった	生活をささえる水路址と旧河道の発見	奈良泰史	28-29
資料コーナー 地域交流研究センターの源流をたずねる	「都留文科大学地域社会学会」の歴史		30
地域交流研究センターのカリキュラム「地域交流研究」			
「地元学」の学びを通じて「地域に出るきっかけ」を			
—本学の「地域交流研究Ⅲ」と山梨県「魅力メッセンジャー事業」の連携による授業—		田中夏子	31
トピックス1	第3回 和服リフォーム展とファッションショー		
	着れるのは着て、捨てるならリフォーム。布との出会いが広げる地域交流	今泉吉晴	32
トピックス2	地域に「気にかけてもらえる存在」としての田んぼ	田中夏子	33
	田んぼを通し学んだこと	奥田恵理奈・中込綾・堀内さやか	33
	大型獣との共生を考える田植え	北垣憲仁	33
トピックス3	比較文化学科講演会		
	林豪勲さん・林清美さんの講演会「僕の生きてきた道—『台湾原住民族』プユマの視点から」2005年12月16日	山本芳美	34
	イサオさんの死と遺された夢	山本芳美	34
	講演会の感想	富田尚也	34
トピックス4	◆つる子どもまつり◆		
	姪っ子たちとともに	田中三義	35
	「ことばのくに」を企画する	関口幸恵	35
	子どもたちの優しさに感謝	梁島一恵	35
	「おもちゃのくに」を担当して	小林志げ美	35
編集後記		畑 潤	36



小さな薪ストーブが森の見方を変えた

一手作りの工房は、地域に生きる問い直しの拠点 今泉吉晴 2-3

特集1:地域の自然にかかわる思いを記す

フィールド・ミュージアムの担い手たち 4

都留の自然と子どもたちの橋渡し 小口尚良 5-7

地域に生きて 地域の自然と暮らしを記す 北垣憲仁 8-11

校舎の裏の林が私に教えてくれたこと 坂田有紀子 12-13

特集2:「まち」こそ文化の交流の舞台 市立図書館・博物館・公民館との地域交流

谷の町 史の里 図書館のあゆみ展 2006年10月28日～11月9日

市立図書館・地域交流研究センター共催事業の報告

図書館のあゆみ展から戦前の図書館活動紹介 市立図書館のルーツをさぐる 青池恵津子 14-15

ミュージアム都留の企画展「土井晩翠と山田耕筰—日本近代詩と近代音楽の巨匠—」を開く 奈良健三 16

公民館活動の展開 都留市中央公民館「二胡学級」 青池恵津子 17

童謡を通して見えてきたもの 梅原真由美 17

トピックス 教育 フィンランド月間—教育と文化を探る—

「自学力」に根ざすフィンランドの芸術家教育 「学力世界一」との共通項 池田和秀 18-19

平成18年度県民コミュニティカレッジ分担講座 20

ハッカライネン教授（フィンランド）と都留文科大学との交流

ハッカライネンさん（オウル大学カヤーニ校副学長）の来校・講義に寄せて 佐藤真紀子 21

「臨床道化師」クリニックラウン登場！主催・初等教育学科臨床教育学コース、地域交流研究センター発達援助部門

クリニックラウンを知る 篠原みさと 22

第9回「山梨県地域教育フォーラム南都留集会」が開催されました

主催・南都留地域教育推進連絡協議会、富士・東部教育事務所、山梨県教育委員会

地域の教育をみんなで支える 古屋光昭 23

教育現場の悩みに応える

都留文科大学地域交流研究センター地域教育相談部 公開講座 2006/11/23 参加者の感想より 粕谷貴志 24

反響をよぶ 都留文科大学地域交流研究センター地域教育相談部 公開講座 2007/2/2参加者の感想から 25

都留文科大学と都留第二中学校との間で双方向通信の遠隔授業が行われる 206/10/17 君田和子 26

平成18年度都留文科大学市民公開講座 英文学からみた「土地と文学」（全5回）主催・地域交流研究センター

文学とその土壤に想いを込める—平成18年度都留文科大学市民公開講座を終えて 依藤道夫 27

授産施設「みとおし」の活動に参加する 地域交流研究プロジェクト 土曜活動の始まり 佐藤保成 28

「みとおし」の活動を通して 甲斐寛齊 28

勉強会「僕の歩く道@つる—障害者が就労するために」2006/12/12 都留文科大学図書館

主催：東部圏域障害児（者）地域療育等支援事業、都留市障害者の就労を広げていくネットワーク

共催：都留文科大学地域交流研究センター 28

地域交流研究センターのカリキュラム「地域交流研究Ⅳ」の報告

雑誌編集が地域交流に果たす役割を考える 北垣憲仁 29

自分を見つめ直す授業 上野日菜 29

編集は「発見の場」 大下友香 29

トピックス フィールド・ミュージアム 地域農業の価値を模索する

休耕地を観察しつつ「田んぼクラブ」の稲刈りが終わる 田中夏子 30

昨年度はイノシシ、本年度はサル、またもや収穫できず 中屋敷フィールドの稲作 北垣憲仁 30

野生動物との貴重な交流 伊藤 希 30

自ら農体験を志す 貴重な一年の経験 肥沼健一 31

富士急沿線をフィールド・ミュージアムとする 奥田壮一 32

「奥隆行写真コレクション」の整備がすすむ 奥 隆行 33

トピックス その他 地域に開かれた学会の大会

日本児童文学学会の大会が都留文科大学を会場に開催される 藤本 恵 34

国語の授業を問い直す 梶原宣仁 34

研究を深化させる「プロセス」に触れて 大町幸奈 34

2006年12月23日 第11回 市民第九演奏会が開かれる 吉田 悟 35

響け都留の「第九」 澤田洋一 35

感動！市民第九を歌い終えて 天野 行 35

畑 潤 36

編集後記



巻頭言 幸せのあり方—北の大地に夢を描いた3人の話—

「自然 / 人の繋がり」を求める若者達	高田 研	2
『ハローウッズ』 ツインリンクもてぎ	崎野隆一郎	3
『霧多布湿原センター』 NPO法人霧多布湿原トラスト	伊東俊和	3-4
『黒松内ぶなの森自然学校』	高木晴光	4-5

特集:人と自然をつなぐ

よりかからず

地域コーディネーターとしての自然学校の可能性	大武圭介	6-7
“インタープリター”という職業	加藤春喜	8-9
建築の連鎖がまちを創る		
福祉住環境への想い	渡辺 讓	10
自然のサイクルを感じながら	加藤大吾	11

トピックス1

第38回つる子どもまつり		
“たのしさいっぱいゆめいっぱい”	浜田悠次	12-13

トピックス2

社会学科の新科目「フィールド体験」おかげさまで無事終了	泉 桂子	14
-----------------------------	------	----

トピックス3

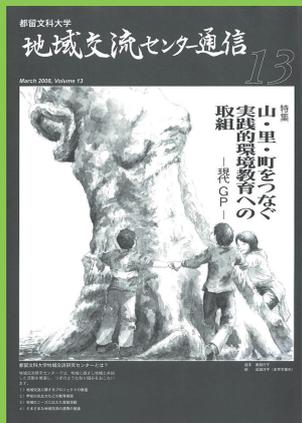
地域交流研究センターのリーフレットができました！		15
--------------------------	--	----

トピックス4

都留文科大学前駅を自然に親しむ入り口に		15
---------------------	--	----

編集後記

	西本勝美	16
--	------	----



バラは何と呼ばれようとも香ばしい

アメリカ・ルネッサンスとフィールド・ミュージアム

今泉吉晴 2-3

特集:山・里・町をつなぐ実践的環境教育への取組

フィールド・ミュージアムへようこそ! —現代 GP—

坂田有紀子 4-5

第4回地域交流研究フォーラム

「つなぐ はぐくむ フィールド・ミュージアム—自然・食・暮らし・文化—」を開催する 2008/2/23

畑 潤 6

都留が気になる街になりました

坂東 誠 6-7

私も一言

坂東英代 7

地域は学びのフィールド

鈴木慎一 8

フィールド・ミュージアムのまいた種

長谷川 望 9

自然に学ぶ

自然や人とのつながりを深める活動をめざして—身近な自然を見つめなおすことからはじめよう—

岡田 淳 10

附属図書館ビオトープ

自然に親しむビオトープづくり

西 教生 11

活動を広く伝えたい

伊藤 希 11

地域に交流の時間と空間を生み出していく

フィールドミュージアムカフェの出発

フィールドミュージアムカフェ第1回—小形山の感想

山本由樹恵 12

「動・はじまり」…Café =つながり

肥沼健一 12-13

人・町・自然をつなぐ地域交流研究

ブオーノ写真展示

オープンカフェで小さな写真展を開く

岩間美千子 14

富士急沿線ミュージアムの取り組み

話しかけてくる自然に耳を傾けて

大下友香 15

都留の魅力を伝える駅展示づくり

川崎真貴子 15

「奥隆行写真コレクション」の紹介

16

フィールド・ミュージアム部門

市立図書館との共催事業「谷の町・史の里 まちの記憶 写真展」

2007年10月27日~11月9日

17

休耕地を利用した食・農・循環の学習

休耕地を利用した食・農・循環の学習 触れてわかる、地球のメッセージ

石井 望 18

無農薬野菜づくりの学習会をもつ

宮崎こころ 19

稲作 稲作と麦づくりの実践 2度目のチャレンジ

前田恵子 20

稲刈りを通して知恵を学ぶ

上原夏美 21

社会学科環境・コミュニティー創造専攻 環コミ学生1年生による弁当づくりの実践

都留のお弁当づくりプロジェクト 山本由樹恵、後藤由貴子、一木則子、芦澤操香、山本絵理菜、

横澤佳奈 22-23

森の勉強会「森に関する学習会」に参加して

桜井明子 24

光ファイバーを使った双方遠隔教育 東桂小学校との遠隔教育プログラム

杉本光司 25

トピックス1 センター拠点

地域交流研究センターの拠点ができました

26

「縁側」のような存在に

小宮正廣 27

居心地のよい空間づくりを心がける

長谷川涼香 27

トピックス2 「特色GP」の採用「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)に採用されました

佐藤 隆 28

トピックス3 「特色GP」推進フォーラム

特色GP 推進フォーラム

テーマ「地域を基盤にした教師教育プログラムの開発」に参加して

長沼千鶴 29

トピックス4 「教員養成改革モデル事業」の採用「教員養成改革モデル事業」に採用されました

杉本光司 30

トピックス5 公開講座

地域交流センター公開講座

データでメスを入れる〈子どもたちの実態〉

2008年2月15日開催

杉本賢二 31

トピックス6 市民公開講座 県民コミュニティーカレッジ

総合テーマ 千年を生きる源氏物語—多様な展開— テーマ もっとパソコンを活用してみよう!

32

トピックス7 南都留地域教育フォーラム

第10回「山梨県南都留地域教育フォーラム」

テーマ:「子ども達の教育は地域全体で担う—地域連携・地域交流を深めるためにII」

日時:2007年11月2日(金) 会場:富士吉田市立明見小学校 地域総ぐるみの子育て運動を

田中克己 33

トピックス8 シンポジウム

都留文科大学社会学科の創設を振り返りその発展を期待します

重原達也 34

トピックス9 部活・サークル活動と地域交流 鷹の巣遺跡試掘調査への参加

奥田恵理奈 35

編集後記

畑 潤 36



巻頭言 子ども時代からの森羅万象・・

津田櫓冬 2-3

特集1:地域を基盤とした教師養成教育モデルの開発

SAT (学生アシスタント・ティーチャー) プログラムの取り組み—特色 GP—

教師教育改革の国際的動向に学ぶ	佐藤 隆	4-5
SAT 活動と子ども理解のカンファレンス	筒井潤子	6
SAT に学ぶ学生たち「子ども体験」を理論と結ぶ	本間由未子	8
「需要」と「共感」の重要性を学ぶ	土屋 愛	9
子どもの学習支援を通して見えてきた課題	志村阿希奈	9
学校に新しい風を吹かせたい	高松祐介	9
SAT の学生とともに	秋山俊一	10
子どもたちの笑顔を求めて	渡辺史江	10-11

特集2:フィールド・ミュージアムの展開と「現代GP」 (山・里・町をつなぐ実践的環境教育への取り組み)

シオジ森の学校との連携…キャンプで成長した先生の卵たち	坂田有紀子	12
火起こしで学んだこと	山口紗絵子	12-13
草木染めとビンゴを企画して	堀江祐香	13
雷雨と川遊び	荒木友子	13
キャンプを終えて	堀 綾乃	13
繋がりを生む「カフェ」という空間	河野 格	14
人の輪 (和) が作り出す空間～十日市場カフェを通して感じたもの～	山田尚悟	15
GROW WILD CAMP	宮崎高虎	16-17
写真が残してくれたもの	白戸溪子	17
「野外遊び」の聞き取りに参加して	益子邦子	18-19
フィールド・ミュージアム部門	桜井明子	20
市立図書館との連携事業の報告 谷の町・史の里 まちの記録・記憶展 2008年10月28日～11月9日		21
三ノ側ビオトープの設置にあたって	杉本 清	22
「オープン・アーカイブ」への期待	小口尚良	23
市民に支えられて田畑を耕しています	編集部	24-25
野外観察会を開催する	西 教生	26

トピックス1 現職教員教育講座

平成 20 年 現職教員教育講座

力をもらえる夏の講座	渋谷正博	27
------------	------	----

トピックス2 都留市子ども教室

都留市子ども教室事業を紹介します	西本勝美	28
達成感のようなものを感じました	前田佳南美	28-29
毎回の活動がとても充実	山城理乃	29

トピックス3 つる子どもまつり連絡会 つる子どもまつり市民連絡会を発足させて

岩間泰司 30-31

トピックス4 「うまいもの市in都留」を企画して

「うまいもの市」に参加して	山内翔太	32
	大澤諒太	33
	大澤夏江	33

トピックス5 部活・サークル活動と地域交流 都留でのキャッチボール

関 ひな子 34

トピックス6 都留市音楽祭 第23回 都留音楽祭 東西古楽の真夏の祭典が開催されました

2008年8月16日(土)～20日(水) 会場・都の杜うぐいすホールほか 都留音楽祭2008レポート	増永 弦	35
--	------	----

編集後記

畑 潤 36



特集:自然を生かし地域をつくる—環境・コミュニティー創造専攻(社会学科)がひらくフィールド—

対談:渡辺豊博・高田研 都留の魅力と私たちの役割—社会学科環境・コミュニティー創造専攻に着任して—

協力:本学教員前田昭彦氏、泉桂子氏、田中夏子氏

2-6

プロジェクト研究

安心して暮らせる、共生の地域づくりをめざして	田中夏子	7
耕作放棄地をよみがえらせた!…6人で開墾に挑戦	志村恵子	7
五年目になった農業実践~ミニ水田の取り組み~	広瀬誠、櫻井拓巳、山岸良、千葉歩、伊藤雄、山下大輝	8
滋賀県でのフィールドワークを経て	西本勝美	9
「日本で一番美しい村」の地域づくりに触れて	阿部麻耶	10
地域の森林に接する	阿久津夏季	11
県有林の歴史を紐解く「森林再生研修会」に参加して	山下詠子	12
森林再生研究会に参加して	中原智弘	13
「今夜は大家族」カフェの魅力	高柳周子	14
小さなカフェ	竹内華純	15
県民コミュニティーカレッジ講座“自然の力”をまちの力に		
リサイクルシステムの可能性を学ぶ	一木則子	16
—「水の力」が市民を結ぶ— 講師・渡辺豊博先生の講座を受講して	中澤弘樹	17

トピックス1 第5回地域交流研究フォーラムが開催されました

地域交流研究フォーラムに参加して	後藤 敬	18
つながるフィールド・ミュージアム	二部奈々緒	19

トピックス2 フィンランド教育を丁寧に見つめ学び合う

「開く」ことに関する「質の転換」—フォーラムに参加して—	鶴田清司	20
------------------------------	------	----

トピックス3 クリニクラウンとして もう一度、学ぶ志をもった理由

	牧田秀昭	21
	塚原成幸	22

トピックス4 新しい遠隔交流授業の実施

東桂小学校と宝小学校を結ぶ	杉本光司	23
---------------	------	----

トピックス5 地域教育相談室の第2回公開講座が2008年11月27日に開催されました。

「ピンチをチャンスに変える教師と保護者の関係づくり」に参加して	遠田将大	24
---------------------------------	------	----

トピックス6 第11回山梨県南都留地域教育フォーラム

「南都留地域教育フォーラム」に参加して	志村武寛	25
---------------------	------	----

トピックス7 文大ボランティアひろば~だれでもどうぞ~

	森嶋美子	26
--	------	----

トピックス8 フィールド・ミュージアムとの連携事業の取り組みと富士急行線沿線活性化について

	石井謙一	27
--	------	----

トピックス9 地域交流研究センターが開講する授業

地域交流研究Ⅲ 講義から教わり、足の裏から学ぶ山梨	山口 周	28
地域交流研究Ⅳ 「伝える」ことのすばらしさを学ぶ	鈴木紀子	29

トピックス10 第13回市民第九演奏会に寄せて 2008年12月21日(日)午後2時開演

第13回市民第九演奏会の感想	澤田洋一	30
第九は一年のしめくくり	新津利子	30-31
学生として第九演奏会に参加する	鈴木舞子	31
編集後記	畑 潤	32



見沼フィールド・ミュージアムを呼びかける リード文：畑潤本誌編集長 大田 堯 2-7

特集：フィールド・ミュージアムと暮らし・教育の思想
大田堯先生とともにする都留フィールド・ミュージアム

(大田先生の地域交流研究センターフィールド視察について) 畑 潤 8

中屋敷フィールドでの麦作りをたのしむ	西丸堯宏	9
ビオトープ広場の大田堯先生のケヤキーフィールド・ミュージアムのシンボル・ツリーの来歴	畑 潤	10
足もとの自然から遠くの自然に想いを寄せる観察会に	西 教生	11
フィールド・ミュージアムの刊行物を紹介します	杉山由貴乃	12
野外遊びの聞き取りを重ねて	桜井明子	13
駅をフィールド・ミュージアムの情報発信の拠点に	砂田真宏	14
大田堯著「わたくしの『都留自然博物館』」(1983年)より抜粋(『地域の中で教育を問う』新評論、1982年、所収)		15
見沼にかかわる人びと 見沼への想い—馬場小室山遺跡との出会いから—	鈴木正博	16
巨大都市圏に緑の大地を残す	北原典夫	16-17
フィールド・ミュージアムって?	島田由美子	18
都留文科大学のフィールド・ミュージアムを訪ねて	生井弘明	19

トピックス 哲学する暮らし

『文大ボランティアひろば』—2年目をむかえて— ~新しい動きとしての「いこいのひろば」の誕生~	杉本光司	20
「いこいのひろば」とは	下平佳樹	21
「いこいのひろば」の今後の展望	内田哲也	21
安田純平氏講演会報告—地域交流センター主催—		
「戦争民営化と出稼ぎ労働者の実情—イラク戦争の現場から」	佐伯奈津子	22
市民に学ぶ、農のある生活の醍醐味	田中夏子	23
ロマンに溢れた畑	宮澤勇氣	23
畑とは、信頼の上に成り立つ	太田真紀	23

トピックス 子どもたちとともに

市民公開講座が開催されました—平成 21 年度— 「夏休み親子で楽しい自然・科学教室」実施報告	山森美穂	24
スライムの実験で学んだこと	與畑幸徳	24
地域の自然と人びとから学ぶ「シオジ森の学校」との連携	坂田有紀子	25
キャンプを企画して	横森 隆	25
キャンプに参加して	松岡勇氣	25
情報教育における地域の小中学校との連携—「大学と小中学校との連携に関する手引書」を発行する—	杉本光司	26
市民と学生たちが共同で担う「つる子どもまつり」が第 40 回を迎えました (5月 17日)。		
つる子どもまつり 40 周年に寄せて	宮原 弓	27
平成21年度都留文科大学現職教員教育講座「教師の子ども理解と学習指導」が開催されました。7月29日(水)~7月31日(金)		
都留文科大学の文化に触れて	天内美加子	28
第 12 回「南都留地域教育フォーラム」が 10 月 29 日に行われました。		
第 12 回「南都留地域フォーラム」に参加して	渡邊英子	29

トピックス フィールド・インターンシップスタート!

ジャパンスネークセンターで学んだこと	田中夏子	30
多くの調整を経て一つのイベントへ	前原 融	30
森林総合研究所を訪れて	鈴木文志	30-31
	島田和宜	31

平成 21 年度コミュニティーカレッジ講座 (都留文科大学)

—文学作品を通して、現代日本の諸問題を考える—主催：地域交流研究センター		
田中実先生の講演「現代人の心の闇について—村上春樹『レキシントンの幽霊』」を聞いて		
小説を読みきったような感動を覚える	渡辺 愛	32
細部から作品全体が見えてくるおもしろさ	望月理子	32
作品がもつ矛盾そのものに魅力を感じる	鈴木彩子	32

訪問演奏を続けています—都留文科大学吹奏楽部

フィールド・ミュージアム構想で印象に残った 4 つのキーワード—「時間」「体制」「多様な関わり」「子育て」	笠松浩樹	34
---	------	----

本学も協賛 シートン生誕 150 周年記念「陸のどうぶつ展 哺乳類の不思議な世界」(仮称)の開催予定		
—国立科学博物館 (東京・上野) 会期：2010 年 3 月 13 日~6 月 13 日		35

編集後記

畑 潤 36



巻頭文	子どもの理解のカリキュラムを創る試み	田中孝彦	2-3
特集1:地域の学校にかかわり教育と研究を問い直す—その実践と思想—			
特色 GP 「地域を基盤とする教師養成教育プログラムの開発」と			
学生アシスタント・ティーチャー (SAT) の拡充 取り組みを振り返って	佐藤 隆	4-6	
臨床教育学フィールドワーク、5年目を終えて	筒井潤子	7-8	
遠隔交流授業の実施	杉本光司	9	
子どもたちへの贈り物「都留市環境副読本」	坂田有紀子	10	
大田堯 大学の一般教育について—ミルの大学論とファープルの学問観にかかわって— (1989年) より抜粋			
大田堯著『自分を生きる教育を求めて』一ツ橋書房、1993年、所収		11	
特集2:あらたな交流を生むシートン生誕150周年記念「大哺乳類展」			
—国立科学博物館(東京・上野) 2010年3月13日(土)～6月13日(日)	編集長	12	
		13	
シートン生誕 150周年記念『大哺乳類展』 シートンが面白い	今泉吉晴	14	
「動き出した! フィールド・ミュージアム」			
上野の国立科学博物館で都留文科大学フィールド・ミュージアムが紹介されます	坂田有紀子	15	
時間と感動を共有したムササビ観察会	伊藤麻里子	16	
フィールド・ミュージアムとの連携事業の取り組みにおける「ムササビ観察会」の開催について	石井謙一	17	
北垣憲仁氏に聞く 自然との出会いとフィールド・ミュージアムへの思い	聞き手:西 教生	18-19	
いわむらかずお絵本の丘美術館	岩村康一郎	20-21	
「大哺乳類展」の都留文科大学の協賛と企画展示を喜びます	田村 慎	22	
謎の大学 都留文科大学が自然博物館構想を進めている	菊池信輝	22	
今泉吉晴氏による E・T・シートンの著書と訳書を写真で紹介します		23	
見沼フィールド・ミュージアムを呼びかける(後編)	大田 堯	24-28	
Topix No.1 地域交流研究センター・くらしと仕事部門講演会が開催される 2010年2月2日			
「世界の森林の歴史と現状」石弘之氏(前東京大学大学院教授)			
途上国支援のあり方再考—石先生のご講演を受けて	加藤優人	29	
Topix No.2 都留文科大学地域交流研究センター第6回地域交流研究フォーラムが開催される			
ようこそ フィールド・ミュージアムへ! 自然と人をつなぐ、人と人をつなぐ、生きいき			
とした新しい地域社会の創造に向けて(H19年度文部科学省採択の現代GPのまとめ)			
2010年2月20日(土)10時～16時 会場:2号館101教室、102教室、201教室			
「思い」が人を動かす	宮崎高虎	30	
継続した積み重ねを感じました	長谷川望	31	
Topix No.3 地域交流研究センター「暮らしと仕事」部門「地域再生」のための学習会			
「市民に学ぶ、農のある生活第二弾」	田中夏子	32	
タイミングが、大切だ	松野公紀	32	
野菜への感動	太田真紀	33	
Topix No.4 フィールドインターンシップ報告—その2—			
フェアトレード商品の普及に関わって—パルシックでの研修を終えて	近藤成将	34	
自分に響き、糧となるNPOでのインターンシップ	神谷 彩	34	
地方紙の醍醐味を実感—自ら取材を体験できた十勝毎日新聞社での研修	前川 保	35	
フィールドインターンシップを通じて、研究課題が明確に	山田育与	35	
Topix No.5 NPO 法人都留環境フォーラムを設立する			
設立記念講演会を2009年11月19日に開催	加藤大吾	36	
Topix No.6 食育と尿中塩分量について 地域交流研究センター・プロジェクト研究	吉住典子	37	
Topix No.7			
都留文科大学地域交流センター地域教育相談室主催「第2回公開講座」(2009年11月5日)に参加して	川上博行	38	
Topix No.8 『谷の町・史の里 益子亮写真展～思い出の記録・時代の記憶～』を開催して			
会期:2009年10月27日～11月8日 場所:都留市立図書館閲覧室	青池恵津子	39	
編集後記	畑 潤	40	



巻頭文 リスにクルミの実をかえす

今泉吉晴 2-3

特集1:都留フィールド・ミュージアムの到達を確認し第二ステージを見通す

◇観察とビオトープづくり	編集部	4
うら山観察会へようこそ	近 知夏	4
五感で味わうビオトープ	尾崎万奈	5
ムリネモのエンカウンター・スペースづくり ムササビ・リス・ネズミ・モグラ		
大きな可能性を秘めたライブカメラ	大輪知穂	6
ムササビカメラの映像について	志村夏樹	7
「キャンパスにリスをよぶ会」の発足		
多くの方がたのご参加を	鳥原正敏	8
キャンパスにリスを呼ぼう	石川あすか	8
ネズミとモグラとの出会いの場づくり		
ヒミズを観察する装置をつくる	井上大輔	9
中屋敷フィールド		
手作業による稲作を体験する楽しみ	前澤志依	10
フィールドに通う魅力	牛丸景太	11
フィールド・ミュージアムと小学校・親子との交流		
谷村第一小学校との交流	自然は僕らの遊び場だ 谷村第一小学校での授業を参観して	上田 司 12 桜井明子 13
『フィールド・ノート』	『フィールド・ノート』との出会いから	西丸堯宏 14
夏休み親子自然教室	「夏休み親子で楽しい自然・科学教室」実施報告 この経験を生かしたい 子どもたちの笑顔が嬉しい 奥が深いスライム	山森美穂 15 宮城三里 15 草場 裕 15 村上 彩 15
都留市社会教育との交流が進む		
都留市中央公民館と都留文科大学・地域交流研究センターの関わり	奥平正純	16
市立図書館と都留フィールド・ミュージアムとの連携事業		
都留フィールド・ミュージアムと読書週間行事を共同開催して	青池恵津子	17
市民グループとの協同の実践		
自然とふれあう豊かな経験を	矢羽正子	18
「遠いところの、遠い出来事」をより身近なものへ	渡邊功資	19
上野 国立科学博物館「大哺乳類展」を振り返る		
大哺乳類展と都留文科大学	杉本光司	20
残したものが生きているものと繋がる	宮崎ここり	21
私の一生の思い出	大澤昭彦	21

特集2:都留フィールド・ミュージアムの歴史と思想を探る

ヤマネ研究の情熱を育む	編集部	22
資料「昭和49年度 都留文科大学公開講座開催要項」	湊 秋作	22
大田堯元学長の大学理念		
大田堯「都留文科大学と都留市民」(1983年)『地域の中で教育を問う』新評論、1989年、所収		24-25
見沼田んぼで都留自然博物館と再会する	安藤聡彦	26
「見沼フィールド・スタディーズ (A)」(2010年度前期)の内容		27
「見沼フィールド・スタディーズ (A)」に参加して	手代木僚	27
平塚市博物館学芸員浜口哲一氏の実践	編集部	28

ヘンリー・D・ソロー著『ウォールデン—森の生活—』 (今泉吉晴訳、小学館、2004年、原作は1854年発行)「第3章 読書」より	29
ソローの「エコロジー」の手紙はあるのでしょうか 大原一興著『エコミュージアムへの旅』への疑問	今泉吉晴 30-31

トピックス

「暮らしと仕事部門」の実践	田中夏子	32
生計を支える農業に接し、視野が広がる	山崎 瞳	32
細やかな工夫の数々に学ぶ	三村隆仁	32
	田中夏子	33
畑を森にする—鳴沢村のオルタ農園を訪ねて	内山 歩	33
軍事政権を支えてきた日本		
講演会「ビルマ（ミャンマー）の紛争と資源開発—天然ガス開発の事例から—」を開催して		
講師 秋本由紀さん	佐伯奈津子	34
つながるエコカフェの挑戦	河野 格	35
地域の子育て・教育の共同		
南都留地域教育フォーラムに参加して	井上和美	36
都留市子ども教室事業を紹介します。	杉本光司	37
子どもたちがいきいきできる場所	長谷川緑	37
子ども教室に参加して	高橋 望	37
市内小中学校の公式ホームページの作成・運用支援について	杉本光司	38
平成 22 年度都留文科大学現職教員教育講座		
主催：地域交流研究センター 平成 22 年 7 月 28 日～7 月 29 日 2101 教室及び音楽棟 M1 講義室		
一挙両得！？現職教員教育講座	板垣尚子	39
第 1 回及び 2 回公開講座「教師力スキルアップ講座」の報告	品田笑子	40
平成 22 年度県民コミュニティーカレッジ講座開催報告		
多面的社会のあり方～国内外の事例を通して学ぶ～	重富恵子	41
「いわむらかずお絵本の丘美術館」での実習	田中夏子	42
「外と内」の循環を学ぶ	遠藤 淑	42
本誌の 16 号（2009 年 12 月発行）が、『月刊社会教育』（国土社、2010 年 4 月号）の		
「資料棚」コーナーで紹介されました。		43
地域交流研究センターに、本年度から事務職員が配属されました		
地域交流研究センターで働いて	志村夏樹	43

編集後記

畑 潤	44
-----	----



巻頭文 新たな繋がりがつくる“未来家族”としての地域

大橋謙策 2-3

特集1:学生ボランティア活動の息吹と展開

「文大ボランティアひろば」の誕生から3年
「第7回地域交流研究フォーラム」の開催 平成23年1月30日(日)

杉本光司 4-5
杉本光司 5
編集部 6
内田哲也 6
下平佳樹 7
聞き手: 田中夏子 8
上原幸子 9
佐藤保成 10
森嶋美子 11

ボランティアサークルからボランティアひろばへ
障がいのある人とともに地域づくりにむけて
地域で働ける社会的環境をめざして—就労支援センター「いちごいちえ」さんに聞く
ボランティア広場、いこいの広場と関わって
もっと交流したい
1人ひとりが自分らしさを精一杯発揮できる活動をめざして

特集2:農と山林に向かう

第1回“農”大生交流パーティー開催!
文大生との出会い、連携の予感
Social菜園's Club~設立20年、先輩から後輩へ、受け継がれる知識とたのしみ~
田んぼクラブ~年間、自分が食べるお米の1/3は自給!
プロジェクト研究「大豆生活」~都留の食と農を「大豆」を通して探求する~
農学部~農を通じて地域とつながる~
work-waku(わくわく)都留~畑を学生と市民の交流の拠点に~
一家だんらん和み菜家~水掛菜を通じて、ヒトとマチとつながる!

編集部 12
崎田史浩 12
長谷美奈 13
大澤かおり 14
佐藤結生 14
崎田史浩 14
香西 恵 15
中島拓哉 15
神谷 彩 15
絵: 内山 歩 15
泉 桂子 16
鳥原正敏 17
中込一雄 18
西丸堯宏 19

足下から考える森林再生
クスノキと小俣さんの製材所
学校林を活用した自然体験活動に向けて
宗男さんとの出会いから

トピックス

テントウムシに異変が… 「テントウムシの越冬を見守る会」
テントウムシの観察から見えること
ムササビ観察会に参加して
(「地域交流研究Ⅲ」)
山梨・堤防の知恵
この土地に住む人々が観光を生き返らせる
(「地域交流研究Ⅳ」)
インタビューが映し出す生き方との出会い
市民公開講座に参加して (2010年11月1日・8日・15日・22日)

畑 潤 20
榊山 潤 20
千葉真希 21
泉 桂子 22
塚原由佳 22
朝倉貴泰 22
北垣憲仁 23
崎田史浩 23
平井和也 24

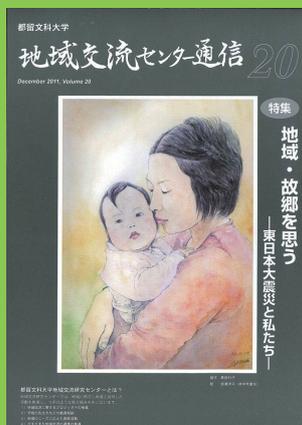
第3回公開講座「教師カススキルアップ講座Ⅲ:
学級づくりに活用する構成的グループエンカウンター講座」に参加して

川久保蓉子 25
編集部 26
一木則子 26
編集部 27
長谷川南 27

(桂川祭)
地場産業と、海外支援を結びつける
(フィールド・インターンシップ)
ワーカーズ・コレクティブ協会で経験した、障がいをもった人の就労支援の仕事

編集後記

田中夏子・畑 潤 28



巻頭文 東日本大震災の被災地支援に参加して考えたこと	近藤直司	4-5
特集: 地域・故郷を思う—東日本大震災と私たち—		
私が体験したあの日	澁谷 咲	6-7
祖父母たちを失う…まずは受け入れること	他力桃子	8
悔いのないように生きよう不安のときを経験して	江尻留美	9
生きること、生かされること—私の震災体験	大平栄子	10-11
学生たちによる災害ボランティア活動の経過報告	高田 研	12-15
釜石での学生たちによるボランティア経験より	田中夏子	16-17
横森隆・湧坂知晶・小黒明奈・遠藤淑・阿部寿隆・そうじ隊参加学生		16-17
<ボランティアする側の心>を気遣う	川崎 倫	18
都留文科大学地域交流研究センター地域教育相談室主催公開講座「被災者にとっての心のケアについて考える」 ～山梨県「心のケアチーム」の一員として被災地に入って感じたこと～ 「被災者にとっての心のケアを考える」に参加して 講師：都留児童相談所所長近藤直司先生 2011年5月27日	分部勝規	19
被災した教師の語りから、「日常」を問い直す	筒井潤子	20-21
2011年7月30日地域社会学会・社会学科共催綿井健陽氏講演会の報告 危機的状況下におけるメディア	佐々木大祐	22
東日本大震災を受けての取り組みに関する提案（社会学科から教授会での提案） 教授会のみなさまへ 2011年6月8日 社会学科学科会議		23
福島県からの自主避難者による講演 小林さんのお話のまとめ 小林さんのお話を聞いて	泉 桂子	24-25
	菰田翔子	24-25
	望月 恵	25
3・11の都留文科大学～職員の記憶ノート～	今泉圭一郎	26
都留文科大学夏季節電対策について	高山竜一	27
トピックス		
情報を共有する観察会	西 教生	28
「文大農作物マーケット」の実績・意義・展望について	狩野 航	29
平成23年度都留文科大学市民公開講座「Hello！英語でワクワク」の開催 2011年8月12日（都留文科大学3号館2階ホールにて） 笑顔あふれる「Hello！英語でワクワク」 ぜひ続けてください！	奥脇奈津美	30
	井上玉貴	31
人権紙芝居「たねをまこう」の制作にかかわって	坂巻洋一	32
研究報告会を開催して	植村憲治	33
平成23年度都留文科大学現職教員教育講座が開催される「夏季集中講座」 主催：地域交流研究センター テーマ：教師の子ども理解と学習指導 日時：平成23年7月28日（木）～29日（金） 場所：都留文科大学2号館101教室 「現職教員教育講座」の感想～学ぶ楽しさの実感できる授業づくりを～	堀内美紀子	34
大田堯先生の映画「かすかな光」上映会に参加して	進藤浩伸	35
編集後記	畑 潤・田中夏子	36



巻頭文	くらしを見直す多彩な証言—北上山地の山小屋で3・11を経験する—	今泉吉晴	4-5
特集1:自然との出会いに心を向け暮らしの伝統を見つめ直す			
	今日は谷二(やに)ラボの日!一緒に理科実験を楽しもう!	山森美穂	6-7
	いっしょに取り組む実験	織邊詳子	7
	十を知って一を教える	櫻井将人	7
	子どもたちの笑顔が嬉しい	杉山実穂	7
	学校現場で活かしたい	佐藤和馬	7
	「楽しさ」と「学び」	高橋孝明	7
	校舎裏の森にエンカウンススペース	中込一雄	8
	北垣憲仁先生を通しての生き物たちとの出会い	佐藤光雄	9
	子どもたちの学習感想		9
	観察会「野生小動物との出会いを楽しむ」	天野未知	10
	NHK3月18日に放映予定		
	ダーウィンが来た!生きもの新伝説〜激流に生きる!謎の水中モグラ〜 取材後記	市原俊幸	11
	大学2号館で越冬するテントウムシ	泉 桂子	11
	農の取り組みを地元小学生に発表	崎田史浩	12
	仕事と暮らし部門第一回学習会		
	大豆栽培を通じて、地域・社会に係わる		
	～固有種の大豆栽培ネットワークの取り組みとその社会的意味～	田中夏子	13
	2011年度都留文科大学公開講座		
	「都留の自然と暮らし～自然と共生したまちづくりのために～」(主催・地域交流研究センター)が 開催されました。		14-15
	県民コミュニティカレッジ講座として		
	第一回(11月12日)カワラナデシコの咲くまちへ		
	～都留市におけるカワラナデシコの分布と現状～	講師:坂田有紀子	14-15
	第二回(11月19日)自然災害から身を守るために		
	～都留の自然災害危険度～	講師:中井 均	14-15
	第三回(12月3日)地域は本物と出会える生きた博物館		
	～都留の自然と人びとの暮らしの知恵に学ぶ～	講師:北垣憲仁	14-15
	第四回(12月10日)地産地消の観点から作成した豆腐キットの実際	講師:吉住典子	14-15
	各回の参加者の感想		14-15
	「生きもの地図作り」から地域を考える(『地域交流研究Ⅱ』)	西 教生	16
	『地域交流研究Ⅲ』の新しい連携のスタート—「やまなし観光カレッジ事業」との提携から—	杉本光司	17
	大学周辺山林の森づくり調査	泉 桂子	18
	夏のねたiri山の実習から	西 教生	19
	イネのちからに感動!—田んぼクラブ便り—	西本勝美	20
	第8回地域交流研究フォーラム	杉本光司	21
	大田堯先生の生き方に触れて	大内一真	21

特集2:地域・故郷を思う—東日本大震災と私たち—(続編)

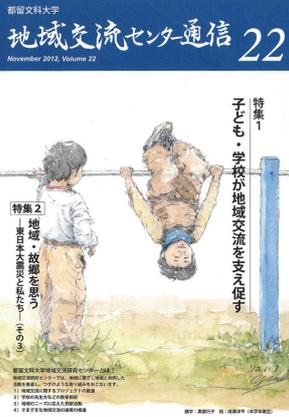
未来を担う子どもたちのために～震災を経験して、教育の原点を見つめ直す～ 被災地における聞き取り調査から	森本晋也	22-23
岩手県釜石市 NPO 法人「ねおす」の協力のもと行った聞き取り調査の内容 仕事と暮らし部門第二学習会	田中夏子	24-27
チョコレートがつなぐイラクと福島の子どもたち 講演会「イラク戦争、フクシマと子どもたち」(講師 佐藤真紀さん)を開催して	佐伯奈津子	28
都留文科大学における放射能測定	山本安夫	28-29
東日本大震災後に想うこと	野崎陽子	30
本学合唱団が被災地支援コンサートを行なう	清水雅彦	31
遠い地に思いを馳せて	石川あゆみ	31
東日本大震災津波被災資料デジタル化レスキュー (参加学生の感想)	日向良和	32
「都留文科大学ボランティアセンター」の活動	榎間・斉木・北村・山崎	32
被災児童と家族の心の支援を都留文大生と展開	平林祐子	33
石巻少年少女合唱隊との出会い	渡辺豊博	34-35
子どもたちの笑顔から支援のあり方を考える	中込晴香	35
被災地支援活動に参加して	中嶋拓哉	36
グラウンドワーク三島の支援活動を通して人との関わりを学ぶ	菰田翔子	36
	吉野大地	36

トピックス

第 14 回「南都留地域教育フォーラム」を終えて	立川 博	37
市立図書館と都留フィールド・ミュージアムの連携事業 読書週間企画展示 谷の町・史の里図書館の活動をささえる人びと～大正から今日まで、地域の活動紹介～ 企画：都留市立図書館 協力：都留文科大学フィールド・ミュージアム 会期：2011年10月28日～11月9日 場所：都留市立図書館閲覧室		
	取材：フィールド・ミュージアム部門	38
「いこいのひろば」の旅行に参加して	荒井翔哉	39

編集後記

田中夏子・畑 潤	40
----------	----



**巻頭文 「自然との共生」って、簡単に言うけど、大変なことだと思う
—たとえば、富士山との共生—**

上杉 陽 4-5

特集1:子ども・学校が地域交流を支え促す

「反省的实践家」としての教師をめざす学生アシスタント・ティーチャー (SAT) 活動の展望
都留市「放課後子ども教室」事業を紹介します。

佐藤 隆 6-7
杉本光司 8
北山祥子 8
渡邊和子 8-9
長田元子 9
村山華子 9

子ども教室に参加して
地域指導員と子どもの関わりを見て
「子どもは地域の宝」～農業体験を通して
子どもと触れ合うことの楽しさ

平成 24 年度都留文科大学公開講座

よみ聞かせから読書の楽しさを一新しいよみ聞かせの形 iPad、大型絵本、そして地域の昔話—
小学生と英語で楽しもう! 「Hello! 英語でワクワク 2012」

日向良和 10-11
奥脇奈津美 12-13
青木洵都・黄土展・伊藤美咲・高野祐一 13

地域交流研究センター・美術教室・山梨県立美術館協同企画

アートの種まきワークショップ「アート巣箱をつくろう」を振り返って
「都留ことばの会」・地域交流研究センター共催 学級づくりの向上をめざす実践講座

舘山拓人 14-15
鶴田清司 16-17
込堂さくら 16-17

平成 24年度都留文科大学現職教員教育講座 (「夏季集中講座」) 今年もまたやって来ました
進み続ける教師でありたい

曾根完樹 18
岡田直也 19

子どもたちと「ムリネモ」の森をつくる —都留文科大学附属小学校での実践から—

北垣憲仁 20

野生動物の出会いから環境教育

中込一雄 21

都留文科大学附属小学校 4 学年うらやま観察について

原田裕太 22-23

都留市環境教育副読本に寄せる

志村達男 24

都留市放課後子ども教室・都留文科大学公開講座関連事業 都留は自然の博物館

長田元子・渡邊和子 25

都留市旭小学校親子環境学習会に寄せて

三枝泰子 26

山梨県北杜高校・講演会 「ムリネモの森によろこそ」

土屋浩之 27

二年目を迎えた都留文科大学・環境 ESD プログラム

坂田有紀子 28-29

特集2:地域・故郷を思う(その3)—東日本大震災と私たち—

人と土地が「生活」をつくっている—原発 20km 圏に生まれて—

佐藤久美子 30-31

社会学科・地域社会学会共催講演会 原発がもたらしたものは何だったのか—佐藤彰彦さんの公演を聞いて

川波寿樹 32

被災地の再生は、地域住民の自立から

渡辺豊博 33

(岩手県大槌町・NPO 法人吉里吉里国でのスタディツアーについて)

田中夏子 34

大槌町吉里吉里での里山再生に学ぶ

藤原優紀 34

防災マップ作りから見えてきたこと

梅崎靖志 35

トピックス1 (Re:Tsuru について) COLLAGE (コラージュ)
「熟議」について

山名花苗 36
北出雅也 36

トピックス2 (プロジェクト研究について) 学生グループ「創志相愛」がつなぐ地元商店街と文大生

原 大貴 37

トピックス3 文大農ネット企画「朝市@文大」オープンキャンパス編の実施を終えて

崎田史浩 38

トピックス4 地域交流研究センター後援 企画展「都留、地名の旅—郷土の記憶をめぐる—」を開催して

会期: 2012 年 6 月 3 日~7 月 15 日 場所: ミュージアム都留

森屋雅幸 39

トピックス5 (フィールド・ミュージアム自然観察会について) 分かち合う楽しさを知る観察会

鈴木陽花 40

トピックス6 地域教育相談室主催公開講座 演題「中高生のネットいじめやトラブルの実態と対応のヒント
~ネットいじめ防止に向けたツールの開発を通じて~」「いじめ」問題を考える視点を学ぶ

講師: 株式会社 KDDI 研究所・研究主査本庄勝先生 (工学博士)

杉本賢二 41

トピックス7 都留文科大学フィールド・ミュージアム協力事業 地域探訪を楽しむ「富士道歩き」

内藤恭義 42

トピックス8 富士道の「先達」に学ぶ

牛丸景太 43

編集後記

畑 潤・田中夏子 44



巻頭文 「きく」ことの意味と葛藤・課題

田中夏子 4-5

特集:観察し、聞き取り、表現する— 私たち自身の心を動かせること—

自然観察とフィールド実践、交流

本物に出会う喜び

砂田真宏 6

生活科「町探検」として都留文科大学ビオトープを見学する— 谷村第一小学校二学年—

小幡恵美子 7

市民とともにカワラナデシコの咲く町へ

坂田有紀子 8-9

田んぼクラブ

古川峰央・横田尚子 8-9

森林フィールドを通しての農山村再生の模索

今野 舜 10

畑に通うこと— 中屋敷での畑仕事から—

泉 桂子 11

都留フィールド・ミュージアムの視察を終えて

持田睦乃 12

井口三月 13

種の保存の取り組み

「たねの自由」勉強会を終えて

林 公則 14

地域の生態— その変化の兆候

尾崎山の動物 事情センサーカメラと地域への聞き取りからみえてきたこと

西丸堯宏 15

イワツバメの繁殖コロニーの動態

西 教生 16

テントウムシの越冬を観察する

鈴木陽花 17

フィールド活動を表現する

地域を「探検」する喜びと『フィールド・ノート』

香西 恵 18

『フィールド・ノート』編集に参加して 3年目で見えてきたもの

前澤志依 19

第9回地域交流研究フォーラム「フィールド・ノート10周年からみえる未来」に参加して

『フィールド・ノート』の読者として

上田聖子 20

読者と考える『フィールド・ノート』のこれまでとこれから

藤森美紀 21

『フィールド・ノート』10年の重みとこれから

別符沙都樹 21

大学での博物館授業と駅舎での展示

畑山ちえ 22

わたしとあなたの都留アルバム事業を通して

森屋雅幸 23

大豆栽培を通して都留で学んだこと

崎田史浩 24-25

地域・故郷を思う (その4) — 東日本大震災と私たち—

岩手県釜石市における聞き取り調査に参加して

宮下 凌瑚 26

トピックス

第15回「南都留地域教育フォーラム」

立川 博 27

県民コミュニティカレッジ「イギリスの文化」に参加して

「人から学ぶ」、「人と一緒に学ぶ」ということの面白さ

倉内紀子 28-29

講演会「隠されたアジアの紛争地～最前線で見たその虚と実」を開催して 講師：南風鳥渉

ナガランド～植民地支配から連綿とつづく先住民弾圧～

佐伯奈津子 30

(社会学科環境・コミュニティ創造専攻のインターンプログラムについて)

インターンシップを終えて

竹田和海 31

インターンシップから学んだバリアフリー観光の可能性

重本香純 31

編集後記

畑 潤・田中夏子 32



巻頭文 一昭和の日々一

近藤幹雄 4-5

特集1:大学と地域をミュージアムとして市民と共有する

山裾をつなぎ蝶が通るみちをつくる (資料)

6-7

都留文科大学新図書館・ビオトープ計画案 新図書館エクステリアの維持管理

今泉吉晴 6-7

新図書館前のビオトープづくり 附属図書館ビオトープの手入れ

西 教生 8

ビオトープでの出会い

別符沙都樹 9

キャンパスをフィールド・ミュージアムに クルミひろいをする キャンパスにリスを呼ぶ会
つるりん (一号館裏の林) との出会い

本田祐士 10

塚本真央 11

田んぼと畑と里山 2年間の田んぼ活動を通して

稲垣ほのか 12

畑で新たな挑戦

前澤志依 13

旧道富士道を歩く 記憶に導かれる地域探訪

牛丸景太 14

きっかけを掴むたび

崎田史浩 15

子どもたちの自然への関心と表現活動

子どもの目を思い起こすー自然観察会を通して感じたことー

篠原円香 16

観察の楽しみー体験で自然を感じるー

杉山 圭 17

森のなかでの環境教育～都留文科大学附属小学校～

小口尚良 18

うらやまに出かけよう～都留文科大学附属小学校～

原田裕太 19

地域における表現活動に参加する 図工・美術教室の新たな取り組み

鳥原正敏 20-21

谷ニラボ続いています!

山森美穂 22

楽しさのその先へ

石川温子 22

試行錯誤する姿

木村盛貴 22

都留文科大学「特別研究」(共同研究) 写真織りに出会うー大学発の特産品への挑戦ー

吉住典子 23

市立図書館、博物館との連携事業

「夏休み昆虫写真展」を企画・開催して

古屋知美 24

夏休み昆虫写真展 2013年7月19日～8月31日都留市立図書館閲覧室

森屋雅幸 25

「ミュージアム都留」との連携事業 わたしとあなたの都留アルバム事業から考えること

26

共同研究論文 (資料)

特集2:地域・故郷を思うー東日本大震災と私たちー(その5)

私の故郷のこと～3.11と遠野市～

菊池 萌 27

釜石市鶴住居地区における被災状況調査の概要について

高田 研 28-29

特集3:出会いを生み喜びを引き出す公開講座

県民コミュニティーカレッジ「健康に役立つ音楽の不思議な力」の実践報告 10月5日・19日

清水雅彦 30-31

響きあう心と心

青 拓美 30-31

都留文科大学子ども公開講座

小学生と英語で楽しもう!「Hello!英語でワクワク2013」

奥脇奈津美 32

講座を担って

前川未来 32

「折り紙を使った算数」を終えて

寺川宏之 33

子どもたちの楽しみの可能性にびっくり

iPadを使った紙芝居とよみ聞かせ・ブックトーク

日向良和 34

子どもたちと過ごした煌めきの時

清水雅彦 35

現職教員教育講座 中学校の社会科をどう創り出すかー現職教員教育講座を受講してー

佐藤親雄 36

都留文科大学地域交流研究センター・地域教育相談室主催 第一回公開講座

講演「スポーツと育てるカウンセリング」～ロンドンで見たチーム JAPANの絆の強さ～

梶原 斉 37

5月24日(2101教室)講師:土屋裕陸(大阪体育大学教授)学級や部活動の指導の基本を考える

都留文科大学の公開講座の歴史 都留短期大学の「夏期大学」(昭和30年)の記録(資料)

38

トピックス 壁新聞が「繋ぐ」もの ジャーナリスト山本美香さんの取材を通して

萩原好一 39

編集後記

畑 潤 40



巻頭文 大学の地域参加と住民の学習

山本健慈 4-5

特集1:動き始めた「都留市まちづくり交流センター」

「都留市まちづくり交流センター」の施設と趣旨

「都留市まちづくり交流センター」の設立経緯と趣旨

相川 泰 6

「都留市まちづくり交流センター」の担い手からのメッセージ

「都留市まちづくり市民活動支援センター」からの報告と提案

池谷 勉久 7

学びのシェアと地域の活性化～公民館が目指す学びの場～

杉田 規子 8

まちづくり市民交流と都留市立図書館の取り組み～交流の先にめざすもの～

青池 恵津子 9

学生との出会いをとらえて～ファミリー・サポート・センター～

杉田 さえ子 10

都留文科大学地域交流センターとまちづくり交流の新たな取り組み

杉本 光司 11

「都留市まちづくり交流センター」での交流の実践

地域福祉とまちづくり交流—「暮らしに役立つみんなの広場」の可能性—
百人一首のイベントを通して

森嶋 美子 12

囲碁・将棋の輪を広げるために

中里 真琴 13

2月14日の降雪災害

大雪の日、1週間で起きたこと—都留市まちづくり交流センターの1週間—

吉田 耕平 14

本田 祐士 15

特集2:9年目を迎えた地域交流研究センターの講義科目「地域交流研究」

教養科目『地域交流研究Ⅱ』—生きもの地図をつくる—

定期的な観察からの発見

西 教生 16

教養科目『地域交流研究Ⅳ』—地域の交流誌をつくる—

自分で成し遂げるとのこと

前澤 志依 16

出会いの感動を伝えたい

北垣 憲仁 17

教養科目『地域交流研究Ⅲ』—「山梨」を知り、歩き、知らせる—

若尾 奈津美 17

宮下 ひかる 17

杉本 光司 18-19

源春風・柘植大在門・李在夏・桐生実佳 19

特集3:南都留地域教育フォーラムと美術教室

南都留地域教育フォーラム 第16回南都留地域教育フォーラムテーマ「子どもたちの教育は地域全体で担う」

期日:平成25年10月31日(木) 場所:富士吉田市立第二小学校

南都留地域教育フォーラムを開催して

小林 統也 20

南都留地域教育フォーラム第2分科会(ネットワーク作りと活用)に参加して

鳥原 正敏 21-22

佐藤 優海・早坂 駿吾・舘山 拓人 22

陶芸講座 谷村第二小学校体験学習会における「陶芸講座」を振り返って

舘山 拓人 23

シリーズ 地域・故郷を思う—東日本大震災と私たち—(その6)

映画『100,000年後の安全』を鑑賞して考えさせられたこと

牛田 弘長 24

トピックス

自治体と大学

富士河口湖町議会との「議会基本条例」づくりに参加して

—公立大学の地域貢献、そして憲法92条と憲法23条の出会い—

進藤 兵 25

市民公開講座 イギリスの文化、歴史を学んで

佐野 兼央 26

イギリスの文化・比較文化の見地から

小野 武彦 27

ミュージアム都留との連携事業

つる子どもまつり—はじまり・いま・みらい—展を振り返って

花山 泰裕 28

企画展「写真が伝える都留の思い出—未来へ贈る地域の記憶—」の準備から考えること

森屋 雅幸 29

キャンパスにリスを呼ぶ会(写真と資料)

クルミの木をキャンパスに植樹する計画(趣意書)2010年6月17日

30

リスを目撃しました

松土 清 31

編集後記

畑 潤 32



巻頭文 都留文科大学「地域交流研究センター」の設立とその理念

—10年の歴史を振り返り、これからを見通す—

畑 潤 4-5

地域交流研究センターの一年を振り返る

発達援助部門

都留文科大学地域交流研究センター・地域教育相談室主催

第1回公開講座「いじめを生じさせない学級づくり」

6-7

子どもたちの素敵な笑顔のために

志村潤子 6-7

よりよい学級経営をめざして

宮野裕太 7

「K-13法」を活用した学級経営サポート

品田笑子 8-9

図工・美術教室における地域交流—今年度の取り組みから—

舘山拓人 10-11

学校現場に出かける—「非定住民」としてのSAT—

堤 英俊 12-13

フィールド・ミュージアム部門

生きものに親しむキャンパスづくり

つい寄り道したくなる場所に

伊藤瑠依 14

身近な自然に目を向けて

川村修央 15

『キャンパスにリスを呼ぶ会メールニュース』の活動

鳥原正敏 16

カナダサスカチュワン州リジャイナのリス

加藤萌香 16

ムササビに一番近い大学を目指して—ライブカメラの一年の取り組みと今後の展望—

加藤萌香 17

研究・教育活動

環境ESDプログラム自然観察会—観察会をとおしてたくましく成長する学生たち—

坂田有紀子 18-19

学生スタッフの感想

服部真紀・篠原円香・中田匡彦・谷田花織 18-19

動物たちとふれあえる森づくり

新田敏子 20

都留文科大学附属小学校の環境教育

小口尚良 20

展示活動 富士急行駅舎でのおもてなし

遠藤桂花・藤森春奈 21

地域の自然や生活の記憶を収集し、保存し、活用する

企画展「写真が伝える都留の思い出—未来へ贈る地域の記憶—」を終えて

森屋雅幸 22

山梨県都留市谷村地域のウォーキングトレイル事業を対象とした風景・景観からの地域特性抽出

相馬佑香 23

地域の現代的な課題に取り組む

カララナデシコの保全活動をとおして生まれた地域交流

坂田有紀子 24-25

地域を調べ、記録し、学び合う

機関誌『フィールド・ノート』の一年

舟田早帆 26

『フィールド・ノート』の経験を活かす—二冊の冊子の創刊—

別符沙都樹 27

地域交流研究センターの教養科目

「地域交流研究Ⅱ」—記録と向き合い、言葉と向き合う時間—

西 教生 28

「地域交流研究Ⅲ」—「山梨」を知り歩き、知らせる—

杉本光司 29

「地域交流研究Ⅳ」—「素直さ」—

藤森明日香 30

プロジェクト研究

田んぼの意義を広める	西本勝美	31
谷ニラボ4年目	山森美穂	32
初めての食育教室	平和香子	33
貴重な体験	西室和美	33

トピックス

平成26年子ども公開講座（陸上教室） 楽しく走ろう！Run・Run・ラン！	麻場一徳	34
平成26年度都留文科大学現職教員教育講座テーマ：教師の子ども理解と学習指導 子どもが本気になる授業づくり	遠山佳代子	35
第17回「南都留地域教育フォーラム」を終えて 学級づくりの向上を目指す実践講座を振り返って	小俣義一	36
シンガポールの学生との交流 「ボランティア」をキーワードとした交流	鶴田清司	37
法政大学からのセンター視察 都留文科大学フィールド・ミュージアムを訪問して	滝口峯子	38-39
法政大学多摩地域交流センター—地域まるごとキャンパス—	須田英一	40
文大名画座『幸せの太鼓を響かせて～INCLUSION～』に込めたメッセージ インクルーシブなまちづくりへ向けて	木村有里・永田咲・三浦悠	41
都留市放課後子ども教室 子どもたちの世界に学ぶ	堤 英俊	41
県民コミュニティーカレッジ映画から見る韓国事情 ～韓国社会の過去・現在・未来を探る～	高村直暉	42
青少年健全育成推進大会 青少年の健やかな成長を願って	加藤敦子	43
	平井幸成	44

都留市まちづくり交流センターの一年

—都留文科大学と地域とをつなぐ架け橋として—	佐藤理恵	45
------------------------	------	----

第10回地域交流研究フォーラムの開催

センターの歩んだ10年と新たな挑戦 —図工・美術教育からの提案—	杉本光司	46-47
-------------------------------------	------	-------

編集後記

麻場一徳	48
------	----



巻頭文 地域づくりの基礎に学習を

吉川 徹 4-5

発達援助部門

都留文科大学地域交流研究センター地域教育相談室・COC推進機構共催

第1回公開講座「教育に活かすアドラー心理学」

品田笑子 6

居場所をさがす子どもたち

上田ゆきみ 6

公開講座に参加して

尾形はづき 7

第2回公開講座「構成的グループエンカウンター」

ふれあいから生まれるもの

品田笑子 8-9

知的障がいの子どもの「声」をはぐくむ

公開講演会「知的障がい教育におけるコミュニケーション指導—マカトン法を通して—」

堤 英俊 10

地域の発達障がいの子どもの自立を支援する—「キャリアデザインワーク」開発の試み—

堤 英俊 11

「クロスボーダープロジェクト」の船出

堤 英俊 12

『スポーツ活動（フロアホッケー）』

清水万里子・三浦 悠 12

『アート活動』

山崎陽子・木村有里・永田 咲 13

地域美術教育分野から地域に発信する表現活動

—新たな時代のものづくりに向けて—

布山浩司 14-15

美術と情報が連携した図工教育におけるICTを活用した新しい教育支援プログラム

—『たからばこ作戦』の実践を通して—

杉本光司 16-17

暮らしと仕事部門

水と生きる、水が育てる、都留の自然と人のくらし

東桂地区に湧水が多い理由（わけ）

内山美恵子 18

湧水を利用する暮らしのこれからを探る

福島万紀 19

フィールド・ミュージアム部門

生きものに親しむキャンパスづくり

自然とかかわる楽しみ

加藤咲季 20

気持ちのゆとりをくれるビオトープ作業

武田美月 20

「ムササビに一番近い大学」から、新たな一歩を

加藤萌香 21

「つるりん」で学ぶ生きものたちの世界

別宮有紀子 22

「つるりん」の生態系についてわかったこと

吉岡沙代・八瀬尾麻美・松島 瞳 22-23

キャンパスにリスを呼ぶ会

鳥原正敏 24

研究・教育活動 都留文科大学附属小の環境教育

小口尚良 25

展示活動

市立図書館との連携事業資料紹介展示『昭和史かるた』

～神田甲陽私が体験してきた昭和の時代～

都留市立図書館 26

現在までの「わたしとあなたの都留アルバム」事業を振り返って

森屋雅幸 27

地域博物館の実現をめざして

伊藤瑠依 28

地域の自然や生活の記憶を収集し、保存し、活用する

オープン・アーカイブ事業の一年

北垣憲仁 29

地域を調べ、記録し、学び合う

地域の良さをもっと知りたい

南條 新 30

『フィールド・ノート』から生まれる出会い

長尾 泉 31

地域交流研究センターの教養科目

「地域交流研究Ⅰ」—地域交流から得た知見を普遍化するためにはどうすればよいか?—	山口博史	32
「地域交流研究Ⅱ」—生きもの地図をつくる—	西 教生	33
—地域交流研究Ⅱの授業を受けての感想—	小俣深和	33
「地域交流研究Ⅲ」—山梨を知り、歩き、そのなかから自分の課題を見つける—	山口博史	34
「地域交流研究Ⅳ」—地域を観察し、記録し、学び合う—	北垣憲仁	35
—記事を書くことで素敵な世界を知る—	福元明梨	35
—都留をもっと好きになりそう—	窪田りさ	35

地域交流研究教育プロジェクト

「田んぼクラブ」—稲作体験実習の取り組み—		
田んぼクラブの活動を振り返って	岡本周治	36
都留市十日市場・夏狩地区における桂川を中心とした水環境の経年変化の把握		
湧水の様子を連続的に観る	内山美恵子	37
食育つる推進プラン～市民会議と大学の連携による学生主体の食育実践活動の試み～		
学生と共に推進する食育教室	柳 映志・御園生ゆかり	38

トピックス

学級づくりの向上をめざす実践講座を振り返って	鶴田清司	39
文大名画座『ツナグ』と辻村深月先生とのトーク	古川裕佳	40-41
平成 27 年子ども公開講座	笹木優衣・杉山圭	42

地域交流研究センターサテライトから

—都留文科大学と地域をつなぐために—	佐藤理恵	43
—地域に広がれ!笑顔の輪!—	小島花野	44
—洋裁ワークショップを開いて—	武田美月	45

第11回地域交流研究フォーラムの開催

地域交流研究活動 —S A T 活動をふり返って—	鳥原正敏	46-47
---------------------------	------	-------

編集後記

	鳥原正敏	48
--	------	----



発達援助部門

地域教育相談室

第一回公開講座「プラス思考の生徒指導への転換」

活気ある落ち着いた学校をつくるために…

三浦 淳 4

「認める」指導への転換

後藤志緒莉 5

都留市現職教員学級経営サポート

品田笑子 6

地域特別支援教育

地域と協働するキャリア学習「キャリアデザインワーク」の挑戦

逢坂佳希 7

クロボのフロアホッケーにかかわって

山口美奈子・且知奈美 8-9

地域美術教育

地域美術教育分野から地域に発信する表現活動 クロボアート活動と陶芸講座

クロボアート活動に参加して

小俣英彦 10-11

都留市立谷村第二小学校 陶芸講座

磯崎えり奈・八田美咲・八巻凌・鈴木大輔・菊田百花 12-13

暮らしと仕事部門

都留を流れる水の調べ方

暮らしと仕事部門研修会

同位体から見る都留市東桂地区の河川の水質について—私たちの生活活動と水質との相互作用—

内山美恵子 14

暮らしと仕事部門主催・郡内地方研究会共催市民公開講座

都留市の水環境—地下水学の基礎と東桂地区の水環境—

内山美恵子 15

フィールド・ミュージアム部門

研究・教育活動 都留文科大学附属小学校の環境教育

小口尚良 16

展示活動

市立図書館・都留文科大学交流事業

「都留文科大学フィールド・ミュージアム写真展～大学周辺と図書館ビオトープの四季～」

古屋知美 17

企画展「あの頃の都留を歩く—写真・記憶・物語—」を終えて

森屋雅幸 18

富士急行線の駅舎での展示活動—まちなかの手作り博物館を目指して—

伊藤瑠依 19

地域を観察し、記録し、学び合う

地域の人々に寄り添う

山内利奈 20

はじめてのキャンパスツアー

平岡摩梨菜 21

オープンキャンパスのキャンパスツアーを担当して

小泉篤広 21

読み手からの視線に学ぶ読者交流会

長尾 泉 22

生き生きとした姿に出会う観察会

高橋未瑠来 23

糞さがしも大切な思い出

佐藤琢磨 23

地域交流研究センターの教養科目

「地域交流研究Ⅰ」

—目の前で起こっていることと社会の事情を結び付けて考えるにはどうすればよいか?—

山口博史 24

「地域交流研究Ⅱ」

—生きもの地図をつくる—

西 教生 25

「地域交流研究Ⅲ」

—山梨について広く知識を得て、それぞれの課題にとりくむために—

山口博史 26

「地域交流研究Ⅳ」

—地域を観察し、記録し、学び合う—

—感動を言葉にする授業—

南條 新 27

地域交流研究教育プロジェクト

「田んぼクラブ」—稲作体験実習の取り組み—

活動の曲がり角を迎えて

柴田富士雄 28

十日市場湧水の年変動を捉えるために

実際の経験を通した学びの大切さ

田村弥咲 29

自分が知らない知識を得る面白さ

竹川貴裕 29

谷コラボ

直径8cmと直径2mの地球・月・惑星

山森美穂 30

食育つる推進市民会議活動～市民会議と大学の連携による学生主体の食育実践活動の試み～

地域の方々と共に歩む食育教室

佐々木新樹・申 玄社 31

トピックス

学級づくりの向上をめざす実践講座を振り返って

鶴田清司 32-33

文大名画座『シラノ・ド・ベルジュラック』

山口博史 33

県民コミュニティーカレッジ いきいきと幸せに生きるために：心理学のすすめ

脳・ストレス・姿勢・コミュニケーションと心理学

中川佳子 34

市民公開講座 日本文学から世界文学へ—夏目漱石と多和田葉子の鉄道小説を読む—

野口哲也 35

子ども公開講座

「留学生と遊ぼう」

川口優佳・越川優花 36

「森の動物の不思議」

田中美佐緒・志村智子・武田ふみ子 37

続ける力が心を紡ぐ～都留文科大学合唱団復興支援クリスマスコンサート～

「復興」という言葉を思う

清水雅彦 38

合唱の意義を考えた2日間

望月彩乃 39

合唱団宮城県訪問について—復興支援コンサートで得たもの—

川瀬咲衣花 40

地域交流研究センターサテライト

大学と地域の懸け橋として

盛里地区での訪問演奏を終えて

滑川未来 41

「編む」を伝える難しさ

加藤萌香 41

第12回地域交流研究フォーラム

Q-Uを活用した学級支援及び学校支援のあり方

品田笑子 42-43

編集後記

鳥原正敏 44

著 者 一 覧

氏 名	所 属	掲 載 号	氏 名	所 属	掲 載 号
					
相川 泰	都留市教育委員会	25	板垣 尚子	徳島県阿波市立伊沢小学校 教諭	18
青 拓美	本学非常勤講師 認定音楽 療法士・アオ・ミュージッ クスクール代表	24	板倉 保秋	都留文科大学附属小学校教員	09
青池 恵津子	都留市立図書館司書・都留 市立図書館	08・09・11・ 17・18・22・ 24・25	一木 則子	社会学科1年・本学社会学 科2年・社会学科環境・コ ミュニティ創造専攻4年	13・15・19
青木 洵都	英文学科3年	22	市原 俊幸	NHK エンタープライズ自然 番組	21
秋山 俊一	都留文科大学附属小学校教頭	14	伊藤 希	社会学科1年・本学社会学 科2年・社会学科3年	08・11・13
阿久津 夏季	本学社会学科2年	15	伊藤 麻里子	本学社会学科・現代社会専 攻3年	17
朝倉 貴泰	本学初等教育学科4年	19	伊藤 美咲	英文学科3年生	22
浅沼 茂夫	富士北麓・東部教育事務所 地域教育・主幹	0304 合併号	伊藤 雄	環境・コミュニティ創造専 攻1年	15
麻場 一徳	本学初等教育学科教員・地 域交流研究センター長	26	伊藤 理恵	都留市博物館「ミュージア ム都留」学芸員	0304 合併号
阿部 寿隆	社会学科環境・コミュニティ 創造専攻3年	20	伊藤 瑠依	社会学科環境コミュニティ 創造専攻2年・社会学科環 境コミュニティ創造専攻3 年・社会学科環境コミュニ ティ創造専攻4年	26・27・28
阿部 麻耶	本学社会学科3年	15・20	稲垣 ほのか	社会学科環境・コミュニティ 創造専攻3年	24
天内 美加子	田舎館村立田舎館小学校所属	16	井上 和美	都留市立都留第二中学校P T A会長	18
天野 行	平成18年 第11回市民第九 演奏会実行副委員長、第九 合唱団団長	11	井上 大輔	初等教育学科4年	18
天野 万知子	下吉田第二小学校教諭	10	井上 玉貴	都留市民	20
天野 未知	井の頭自然文化園教育普及係	21	猪俣 春彦	山梨県立桂高等学校教員・ 桂高等学校教諭	02・05
雨宮 香織	初等教育学科3年	08	今泉 圭一郎	地域交流研究センター職員	20
荒井 翔哉	比較文化学科1年	21	今泉 吉晴	本学社会学科教員・本学名 誉教授・本学地域交流研究 センター初代センター長	01・02・05・ 06・08・09・ 10・11・13・ 17・18・21・ 24
荒木 友子	初等教育学科3年	14	岩倉 里珠	本学社会学科2年	07
有村 祐輔	都留音楽祭監督・都留音楽 祭名誉教授	06	岩間 泰司	都留市「あすなる職人会」	14
安藤 聡彦	埼玉大学教授	18	岩間 美千子	都留市在住、パスタ専門店 「ブオーノ」店主	13
					
李在 夏	比較文化学科3年	25	岩村 康一郎	「いわむらかずお絵本の丘美 術館」学芸員	17
井川 絵美	社会学科4年	08			
井口 三月	御岳ビジターセンター解説員	23	上杉 陽	本学名誉教授	22
池田 和秀	音楽ライター/日本シベリ ウス協会運営委員	11	上田 司	都留市谷村第一小学校教諭	18
池谷 迪久	都留市まちづくり市民活動 支援センターセンター長	25	上田 聖子	都留市民	23
石井 謙一	富士急行株式会社交通事業 部鉄道担当・富士急行(株)交 通事業部	15・17	上田 ゆきみ	市内小学校教諭	27
石井 壘	社会学科1年	13	上野 日菜	初等教育学科1年	11
石川 あすか	社会学科3年	18	上原 幸子	ボランティアコーディネー ター	19
石川 温子	初等教育学科4年	24	上原 夏美	初等教育学科3年	13
石川 あゆみ	大学合唱団学生指揮者・英 文学科3年	21	植村 憲治	本学初等教育学科教員	20
石川 正一	山口県立大学地域共同研究 センター研究員・助手	07	宇佐 美千里	図書情報課	07
石松 香代子	本学大学院修士課程、小学校 教諭	07	牛田 弘長	都留市民	25
泉 桂子	社会学科教員・本学社会学 科教員・本学社会学科環境・ コミュニティ創造専攻教員	12・15・19・ 20・21・23	牛丸 景太	国文学科1年・国文学科3年・ 国文学科4年	18・22・24
磯崎 えり奈	本学非常勤講師	28	内田 哲也	本学社会学科現代社会専攻3 年・社会学科現代社会専攻4年	16・19
磯崎 由香	本学社会学科3年・社会学 科4年	06・08	内山 歩	社会学科現代社会専攻2年	18・19
			内山 美恵子	本学COC推進機構特任教授	27・28

著 者 一 覧

氏 名	所 属	掲載号	氏 名	所 属	掲載号
梅崎 靖志	本学非常勤講師	22	尾崎 万奈	比較文化学科 4 年	18
梅原 真由美	都留文科大学合唱団、本学初等教育学科 3 年	11	長田 元子	放課後子どもプランコーディネーター	22
			小野 武彦	都留市民	25
江尻 留美	国文学科 3 年	20	小幡 恵美子	谷村第一小学校教諭	23
榎本 環	本学社会学科非常勤講師	07	小俣 きみ江	都留市市民・上野原小学校教諭	07
遠田 将大	本学初等教育学科 4 年	15	小俣 溪和	社会学科環境コミュニティ創造専攻 2 年	27
遠藤 桂花	国文学科 4 年	26	小俣 英彦	本学初等教育学科非常勤講師	28
遠藤 静江	元小学校教諭・都留詩友会会長	06	小俣 義一	富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフ主幹	26
遠藤 淑	社会学科環境コミュニティ創造専攻 3 年・社会学科環境・コミュニティ創造専攻 4 年	18・20	織邊 詳子	初等教育学科 4 年	21
					
黄土 展	英文学科 4 年	22	甲斐 寛斉	本学社会学科 1 年	11
大内 一真	国文学科 3 年	21	郭 燦飛	本学社会学科 4 年	07
逢坂 佳希	初等教育学科 4 年	28	笠原 十九司	本学比較文化学科教員	09
大澤 昭彦	初等教育学科 4 年	18	笠松 浩樹	島根県中山間地域研究センター	16
大澤 かおり	社会学科現代社会専攻 2 年	19	梶原 斉	勝山中学校教諭	24
大澤 夏江	大澤諒太君のお母さん	14	梶原 宣仁	笛吹市八代小学校	11
大澤 諒太	禾生第一小学校 3 年	14	粕谷 貴志	本学非常勤講師	01・02・0304 合併号・11
大下 友香	比較文化学科 3 年・比較文化学科 4 年	11・13	目 知奈美	初等教育学科 4 年	28
太田 藍乃	本学初等教育学科 3 年	05	勝俣 武男	東桂中学校校長 現都留文科大学同窓会会長	0304 合併号
大田 堯	元都留文科大学学長・都留文科大学元学長・東京大学名誉教授・日本子供を守る会名誉会長	06・16・17・18	加藤 敦子	本学国文学科教員・国際交流センター副センター長	26
太田 真紀	本学初等教育学科 2 年・初等教育学科 2 年	16・17	加藤 咲季	社会学科環境コミュニティ創造専攻 3 年	27
大武 圭介	ホールアース自然学校事業部コーディネーター	12	加藤 大吾	アースコンシャス・都留市在住・NPO 法人都留環境フォーラム理事長 / ピースライフワーカー	12・17
大橋 謙策	日本社会事業大学大学院特任教授、前学長、特定非営利活動法人日本地域福祉研究所理事長	19	加藤 春樹	岐阜県郡上八幡町在住 WildLife Art 雑貨販売店経営 1993 年本学卒業	02 (写真)
大平 栄子	本学英文学学科職員	20	加藤 春喜	トヨタ白川郷自然学校・インタープリター	12
大町 幸奈	本学初等教育学科 4 年	11	加藤 宏明	本学社会学科 3 年・本学社会学科 4 年	06・09
大輪 知穂	本学情報センター職員	18	加藤 萌香	初等教育学科 2 年・初等教育学科 3 年・初等教育学科 4 年	26・27・28
岡田 淳	初等教育学科 3 年	13	加藤 優人	社会学科・環境・コミュニティ創造専攻 3 年	17
岡田 直也	上野原西小学校	22	金子 博	都留文科大学学長	02
尾形 はづき	比較文化学科 2 年	27	神谷 彩	社会学科 環境・コミュニティ創造専攻 3 年・社会学科環境・コミュニティ創造専攻 4 年	17・19
岡本 周治	社会学科現代社会専攻 3 年	27	狩野 航	社会学科環境・コミュニティ創造専攻 4 年	20
荻野 雅之	木楽舎つみ木研究所・山梨県中央市	09	川上 博行	初等教育学科 4 年	17
奥 隆行	都留市在住、郷土史研究会	11	川口 優佳	初等教育学科 2 年	28
奥田 恵理奈	社会学科 1 年・社会学科 2 年、考古学研究会	10・13	川久 保蓉子	大月市立七保小学校	19
奥田 壮一	富士急行株式会社交通事業部	11	川崎 真貴子	比較文化学科 4 年	13
奥平 正純	都留市中央公民館・社会教育指導員・青少年育成カウンセラー	18	川崎 倫	本学比較文化学科卒業生・地域づくり協力隊	20
小口 尚良	都留市立谷村第二小学校教諭・東桂小学校教員・都留文科大学附属小学校教員	01・02・05・08・11・14・24・26・27・28			
奥脇 奈津美	本学英文学学科教員	20・22・24			

著 者 一 覧

氏 名	所 属	掲 載 号	氏 名	所 属	掲 載 号	
川瀬 咲衣花	大学合唱団学生指揮者・初等教育学科3年	28		県立桂高校	01	
川波 寿樹	社会学科現代社会専攻2年	22				
川橋 保夫	本学大学院生 臨床教育実践学専攻	0304 合併号		小石沢 栄子	在宅ケアを支える会世話人	
川村 茂雄	本学初等教育学科教員	01・0304 合併号				
川村 修央	初等教育学科3年	26	小泉 篤広	社会学科現代社会専攻1年	28	
川村 千恵	下吉田第一小学校教員	09	香西 恵	社会学科環境・コミュニティ創造専攻2年・社会学科環境・コミュニティ創造専攻4年	19・23	
神戸 絵里子	本学社会学科3年	06	河野 格	本学比較文化学科4年・都留市地域おこし協力隊、NPO法人都留環境フォーラム	14・18	
	菊池 信輝	本学社会学科教員・広報委員会	17	肥沼 健一	社会学科4年・本学社会学科学生	
	菊池 萌	社会学科現代社会専攻3年	24	小暮 祐介	比較文化学科2年	
	菊田 百花	初等教育学科2年	28	小黒 明奈	社会学科環境・コミュニティ創造専攻3年	
	北垣 憲仁	本学地域交流研究センター特任准教授・本学特任准教授・本学COC推進機構特任教授・フィールド・ミュージアム部門責任者	01・02・0304 合併号・05・06・07・08・09・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28	小坂 文則	本学大学院生 臨床教育学実践学専攻	
	北出 雅也	社会学地域社会専攻	22	越川 優花	比較文化学科1年	
	北原 典夫	見沼たんぼを青少年とともに学び楽しむ会 事務局長	16	小島 花野	国文学科3年	
	北村	比較文化学科3年	21	後藤 志緒莉	大学院文学研究科国文学専攻2年	
	北村 笑子	本学初等教育学科4年	10	後藤 敬	三吉地区協働のまちづくり推進会長	
	北山 祥子	比較文化学科3年	22	後藤 由貴子	社会学科1年	
	君田 和子	本学情報センター	11	小橋 哲也	社会学科4年	
	木村 実希	本学初等教育学科4年	10	小林 愛奈	本学国文学科3年・つる子どもまつり事務局長	
	木村 盛貴	初等教育学科4年	24	小林 志げ美		
	木村 有里	初等教育学科3年・初等教育学科4年	26・27	小林 高	都留市情報未来創造館館長	
	桐生 実佳	国文学科2年	25	小林 統也	富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフ主幹	
		草場 裕	本学初等教育学科4年	18	小林 文子	都留文科大学国際交流室専門員
楠本 六男		本学国文学科教員	01・02・0304 合併号	込堂 さくら	初等教育学科4年	
工藤 詩織		本学社会学科2年	07	小宮 正廣	都留市在住、村松新聞店勤務、『街かど情報 TSURU』編集担当	
工藤 真純		本学初等教育学科3年・本学初等教育学科研究生	02・08	菰田 翔子	都留文科大学社会学科環境・コミュニティ創造専攻2年	
功刀 美絵		本学初等教育学科卒業生	10	近 知夏	社会学科2年	
窪田 りさ		社会学科1年	27	近藤 直司	都留児童相談所・所長	
倉内 紀子		都留市民	23	近藤 成将	社会学科 環境・コミュニティ創造専攻3年	
黒部 行子		表紙題字	01・02・0304 合併号・05・06・07・08・09・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28	近藤 幹雄	本学名誉教授	
				今野 舜	社会学科現代社会専攻2年	
				権守 達也	本学社会学科1年	
					齊木	社会学科現在社会専攻3年
					三枝 泰子	都留市立旭小学校校長
					佐伯 奈津子	本学兼任講師・都留文科大学 非常勤講師・本学非常勤講師
					榎間	国文学科4年
						21

著 者 一 覧

氏名	所属	掲載号	氏名	所属	掲載号	
榊山 潤	比較文化学科 4年	19	篠原 円香	初等教育学科 2年・初等教育学科 3年	24・26	
坂口 隆子	本学社会学科 3年	06	篠原 みさと	本学初等教育学科 3年	11	
坂田 有紀子	本学初等教育学科教員・初等教育学科教員・環境 ESDプログラム運営委員会委員長	09・11・13・14・16・17・21・22・23・26	柴田 富士雄	社会学科現代社会専攻 3年	28	
坂巻 洋一	本学初等教育学科教員	20	澁谷 咲	英文学科 3年	20	
崎田 史浩	社会学科環境・コミュニティ創造専攻 2年・社会学科環境・コミュニティ創造専攻 3年・社会学科環境・コミュニティ創造専攻 4年・本学卒業生	19・21・22・23・24	澁谷 正博	川崎市立小倉小学校教諭	14	
桜井 明子	本学比較文化学科 1年・社会学科 3年・本学社会学科 4年・社会学地域社会研究専攻 1年・社会学科大学院 2年	09・13・14・16・18	嶋田 鋭二	都留文科大学名誉教授	07	
櫻井 拓巳	環境・コミュニティ創造専攻 1年	15	嶋田 和宜	本学社会学科環境・コミュニティ創造専攻 3年	16	
櫻井 将人	初等教育学科 4年	21	嶋田 由美子	NPO 法人見沼ファーム 21 理事長、埼玉県さいたま市在住	16	
佐々木 新樹	初等教育学科 4年	28	清水 絹代	つるまちづくりネットワーク、栄養士	07	
佐々木 大祐	社会学科現代社会専攻 3年	20	清水 政雄	都留市農業委員会会長	08	
佐々木 寛章	本学社会学科 4年	09	清水 雅彦	本学初等教育学科教員・大学合唱団顧問・指揮者・常任指揮者	09・21・24・28	
笹木 優衣	初等教育学科 4年	27	清水 万里子	初等教育学科 4年	27	
佐々木 裕子	岡部工業所・大月市	09	清水 亮	本学比較文化学科卒業生	01・05・06	
佐藤 和馬	初等教育学科 4年	21	志村 阿希奈	初等教育学科 4年	14	
佐藤 久美子	モダンリビング編集部	22	志村 恵子	「あすなろの会」東部授産園「みとおし」施設長・東部授産園「みとおし」園長	09・15	
佐藤 隆	本学初等教育学科教員・初等教育学科教員・都留文科大学教職員組合委員長	01・02・0304 合併号・06・10・13・14・17・22	志村 潤子	都留市宝小学校教員	26	
佐藤 琢磨	社会学科環境コミュニティ創造専攻 1年	28	志村 武寛	都留市立東柱中学校 PTA 会長	15	
佐藤 親雄	山中湖村立東小学校校長	24	志村 達男	都留市教育研修センター教育相談員	22	
佐藤 菜穂子	社会学科 4年	08	志村 智子	放課後子どもプランコーディネーター	28	
佐藤 洋	宝のやまネイチャーセンター学芸員・ネイチャーセンター学芸員	02・0304 合併号・08	志村 夏樹	地域交流研究センター職員	18	
佐藤 真紀子	本学大学院生＝臨床教育実践学専攻	11	志茂 龍太	社会学科 2年	08	
佐藤 光雄	都留文科大学附属小学校教諭	21	下平 佳樹	本学社会学科現代社会専攻 3年・社会学科現代社会専攻 4年	16・19	
佐藤 保成	東部授産園「みとおし」職員	11・19	庄井 良信	北海道教育大学大学院教員	0304 合併号 (写真)・10	
佐藤 結生	社会学科環境・コミュニティ創造専攻 2年	19	白戸 凪子	本学比較文化学科 4年	14	
佐藤 優海	図工・美術教室立体ゼミ 3年	25	申 玄社	初等教育学科 4年	28	
佐藤 理恵	本学職員	26・27	進藤 兵	本学社会学科教員	25	
佐野 兼央	都留高等学校 1年	25	進藤 浩伸	東京大学教育学部	20	
澤田 洋一	平成18年 第11回市民第九演奏会実行委員長・市民第九演奏会実行委員会、実行委員長	11・15				
	重富 恵子	比較文化学科教員	18	杉田 さえ子	社会福祉協議会職員 ファミリー・サポート・センターアドバイザー	25
	重原 達也	都留文科大学学生課長	13	杉田 規子	都留市中央公民館	25
	重本 香純	社会学科環境・コミュニティ創造専攻 4年	23	杉田 義司・利枝 夫妻	都留市十日市場「いつくしみハイツ、慈察」	07
	品田 笑子	本学地域交流研究センター特任教授・本学 C O C 推進機構特任教授・地域教育相談室担当・地域交流研究センター特任教授	18・26・27・28	杉本 清	都留市役所産業建設部産業観光課・農業委員会事務局・都留市役所市民生活課	08・14
				杉本 賢二	富士吉田市立吉田中学校研究主任・道志村立道志中学校教諭・研究主任	13・22
			杉本 光司	本学教員・情報センター・本学情報センター教員・地域交流研究センターセンター長・「地域交流研究Ⅲ」担当・地域交流研究センター長	13・15・16・17・18・19・21・22・25・26・27	
			杉山 圭	初等教育学科 2年・初等教育学科 4年	24・27	

著者一覧

氏名	所属	掲載号	氏名	所属	掲載号
杉山 実穂	初等教育学科 4年	21	武田 美月	社会学科環境コミュニティ創造専攻 3年	27
杉山 由貴乃	本学国文学科 4年	16	立川 博	山梨県富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフ主幹・地域教育支援スタッフ	21・23
鈴木 彩子	高校非常勤講師	16	舘山 拓人	本学初等教育学科図工・美術教室特任准教授	22・25・26
鈴木 慎一	日本福祉大学教員	13	田中 克己	富士・東部教育事務所 地域教育支援担当	13
鈴木 大輔	初等教育学科 2年	28	田中 孝彦	本学教員 教育思想・臨床教育学・本学初等教育学科教員	01・0304 合併号・10・17
鈴木 丈志	本学社会学科環境・コミュニティ創造専攻 3年	16	田中 夏子	本学教員・本学社会学科教員・編集部・副編集長・本学社会学科環境・コミュニティ創造専攻教員	09・10・11・15・16・17・18・19・20・21・22・23
鈴木 紀子	本学社会学科 1年	15	田中 治夫	有限会社「ファイブ・スリー」	08
鈴木 陽花	初等教育学科 3年	22・23	田中 美佐緒	放課後子どもプランコーディネーター	28
鈴木 舞子	本学国文学科 3年、都留文科大学管弦楽団	15	田中 三義	市民・子どもまつり歴 8年	10
鈴木 正子	都留市在住	09	田辺 愛子	本学社会学科 3年、吹奏楽部	16
鈴木 正博	「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」	16	棚本 安男	山梨郷土研究会理事、都留市在住、都留市立図書館協力委員会委員長	09
須田 英一	法政大学現代福祉学部兼任講師	26	谷田 花織	社会学科 3年	26
砂田 真宏	本学初等教育学科 1年・初等教育学科 4年	16・23	玉木 清野	国文学科 1年	08
			田村 慎	朝日新聞東京本社事業本部文化事業部	17
関 ひな子	都留文科大学女子ソフトボール同好会主将	14	田村 弥咲	初等教育学科 3年	28
関口 幸恵	都留詩友会	10	他力 桃子	国文学科 2年	20
芹澤 操香	社会学科 1年	13			
そうじ隊参加学生		20	千葉 歩	環境・コミュニティ創造専攻 1年	15
相馬 佑香	東京都市大学平成 25 年度卒業生	26	千葉 立也	本学社会学科教員	01・02・05
曾根 完樹	山中湖村立山中小学校教諭	22	千葉 真希	比較文化学科 4年	19
園田 一二	学生課長	0304 合併号			
			塚原 成幸	本学大学院臨床教育実践学専攻、日本クリニックラウン協会事務局兼芸術監督、臨床道化師	15
平和 香子	本学初等教育学科教員	26・27・28	塚原 由佳	本学国文学科 2年	19
高田 研	本学社会学科教員・本学社会学科環境・コミュニティ創造専攻教員	12・15・20・24	塚本 真央	初等教育学科 4年	24
高野 祐一	大学院	22	柘植 大在門	初等教育学科 1年	25
高橋 孝明	初等教育学科 4年	21	津田 櫓冬	画家、「日本子どもの本研究会」副会長	14
高橋 ちひろ	本学社会学科 3年	02	土屋 愛	本学初等教育学科 3年	14
高橋 望	国文学科 3年	18	土屋 浩之	山梨県立北杜高等学校「総合的な学習の時間」担当	22
高橋 未瑠来	社会学科現代社会専攻 3年	28	筒井 潤子	本学初等教育学科教員	10・14・17・20
高部 剛		0304 合併号 (写真)	堤 英俊	本学初等教育学科教員	26・27
高松 祐介	本学研究科臨床教育実践専攻	14	都留市立図書館		27
高村 直暉	初等教育学科 2年	26	鶴田 清司	本学初等教育学科教員・本学広報委員長	02・15・22・26・27・28
高柳 周子	本学初等教育学科 4年	15			
高山 竜一	本学財務・会計担当	20			
滝口 峯子	本学国際交流センター留学・国際交流室	26			
武居 秀樹	本学社会学科教員	08			
竹内 華純	本学大学院社会学地域社会研究専攻 2年	15			
竹川 貴裕	初等教育学科 3年	28			
竹田 和海	社会学科環境・コミュニティ創造専攻 3年	23			
武田 ふみ子	放課後子どもプランコーディネーター	28			

著者一覧

氏名	所属	掲載号	氏名	所属	掲載号
					
出倉 裕一	本学大学院社会学地域社会研究専攻	08	成瀬 洋平	本学社会学科学生・本学比較文化学科大学院生・本学比較文化学科大学院2年・本学比較文化学科卒業生・本学比較文化学科大学院卒業生・本学卒業生	01・05・06・07・08・09・10・11・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28
手代 木僚	埼玉大学教育学部学校教育教員養成課程社会専修1年	18	南條 新	初等教育学科2年・初等教育学科3年	27・28
寺川 宏之	本学初等教育学科教員	24			
			新津 利子	都留市在住	15
遠山 佳代子	道志小学校教諭	26	新沼 由梨	本学初等教育学科4年	10
徳永 佳世	本学比較文化学科4年	09	西 教生	本学社会学科4年生・社会学科大学院2年・環境教育GP研究員・現代GP特別研究員・「地域交流研究Ⅱ」担当、本学非常勤講師	0304 合併号・09・13・14・16・17・20・21・23・24・25・26・27・28
富田 尚也	比較文化学科3年	10	西丸 堯宏	本学社会学科環境・コミュニティ創造専攻3年・社会学科環境・コミュニティ創造専攻4年・本学社会学科環境・コミュニティ創造専攻卒業生	16・18・19・23
富山 克彦	都留市教育長	10	西室 和美	初等教育学科4年	26
戸村 麻衣子	東桂保育園保育士	10	西本 勝美	本学初等教育学科教員、地域交流研究センター長	06・08・12・14・15・21・23・24・26・27・28
豊川 紗衣子	国文学科1年	08	新田 敏子	都留文科大学附属小学校4年教諭	26
鳥居 明雄	本学比較文化学科教員	07	二部 奈々緒	大月市在住	15
鳥原 正敏	本学初等教育学科教員・「キャンパスにリスをよぶ会」会長、フィールド・ミュージアム部門担当・初等教育学科美術教室教員・本学地域交流研究センター長	18・19・24・25・26・27・28			
			布山 浩司	本学初等教育学科特任准教授	27
内藤 恭義	都留市郷土研究会会長	22			
中井 均	本学初等教育学科教授	21	根木 直子	本学比較文化学科4年	10
長尾 泉	初等教育学科2年・初等教育学科3年	27・28			
中川 佳子	本学初等教育学科教員	28	野口 哲也	本学国文学科教員	28
中込 綾	社会学科1年	10	野崎 陽子	社会学科環境・コミュニティ創造専攻4年	21
中込 一雄	都留文科大学附属小学校校長	19・21・22	野武 紀之	都留青年会議所役員	09
中込 晴香	都留文科大学社会学科環境・コミュニティ創造専攻3年	21			
中込 百合	本学研究生	0304 合併号	萩原 好一	葦崎高校教諭	24
中里 真琴	国文学科1年	25	長谷 美奈	地域おこし協力隊 / 「カフェかたつむり」運営	19
中澤 弘樹	南アルプス市在住	15	長谷川 涼香	国文学科3年	13
中嶋 拓哉	社会学科環境・コミュニティ創造専攻2年・都留文科大学社会学科環境・コミュニティ創造専攻3年	19・21	長谷川 望	本学初等教育学科卒業、静岡県富士宮市立原田小学校教諭・初教卒 富士市立原田小学校教諭・富士自然観察の会運営委員	13・17
永田 咲	初等教育学科3年・初等教育学科4年	26・27			
中田 匡彦	初等教育学科2年	26	秋原 好一	葦崎高校教諭	24
長沼 千鶴	初等教育学科4年	13	長谷 美奈	地域おこし協力隊 / 「カフェかたつむり」運営	19
中原 智弘	本学社会学科2年	15	長谷川 涼香	国文学科3年	13
中村 恵子	東桂中学校、養護教諭	06	長谷川 望	本学初等教育学科卒業、静岡県富士宮市立原田小学校教諭・初教卒 富士市立原田小学校教諭・富士自然観察の会運営委員	13・17
中村 伸也	本学社会学科3年	05			
中村 拓郎	本学社会学科3年・児童文化研究部	06			
中村 操	バンカム都留店主	08			
生井 弘明	「人が育つことサークル」、埼玉県草加市在住	16			
滑川 未来	国文学科3年	28			
奈良 健三	ミュージアム都留学芸員	11			
奈良 泰史	都留市役所政策形成課	10			

著者一覧

氏名	所属	掲載号	氏名	所属	掲載号
長谷川 緑	初等教育学科 4年	18	藤森 明日香	初等教育学科 4年	26
長谷川 南	社会学科環境・コミュニティ創造専攻 3年	19	藤森 春奈	英文学科 4年	26
畑 潤	本学社会学科教員・編集長・本学名誉教授、本誌初代編集長	01・02・0304 合併号・06・10・13・14・17・225・6・7・8・9・10・11・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26	藤森 美紀	社会学科現代社会専攻 4年	23
畠田 真奈	社会学科 4年	05	藤原 優紀	社会学科環境・コミュニティ創造専攻 4年	22
畑山 ちえ	比較文化学科 4年	23	舟田 早帆	社会学科環境コミュニティ創造専攻 2年	26
八巻 凌	初等教育学科 2年	28	古川 峰央	2008年度卒業生	23
八田 美咲	初等教育学科 2年	28	古川 裕佳	本学国文学科教員	27
服部 真紀	社会学科 3年	26	古屋 知美	都留市立図書館司書	24・28
花山 泰裕	初等教育学科 3年・つる子どもまつり実行委員会事務局	25	古屋 光昭	山梨県富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフ主幹	11
羽野 幸	本学社会学科 3年・本学社会学科 4年	06・09	分田 順子	本学比較文化学科教員	05・08
母親	都留市在住・軽度発達障害のお子さん	09			
浜田 悠次	本学初等教育学科 3年・つる子どもまつり事務局	12	別宮 有紀子	本学初等教育学科教員	27
早坂 駿吾	図工・美術教室立体ゼミ 4年	25	別符 沙都樹	国文学科 1年・国文学科 2年・国文学科 3年	23・24・26
林 公則	本学社会学科非常勤講師	23			
原 大貴	社会学科環境・コミュニティ創造専攻 2年	22	堀 綾乃	本学初等教育学科 3年	14
原田 裕太	都留文科大学附属小学校教員・都留文科大学附属小学校第4学年担任	22・24	堀内 さやか	社会学科 1年	10
坂東 英代	環境教育インタープリター、静岡県富士宮市	13	堀内 美紀子	忍野小学校	20
坂東 誠	環境カウンセラー、静岡県富士宮市	13	堀江 祐香	本学初等教育学科 3年	14
			袈岩 亜紀	本学職員	28
東桂中学校		0304 合併号 (写真)	本田 深雪	本学社会学科 3年・本学社会学科 4年	02・07
日向 良和	本学図書館司書・本学情報センター教員	05・21・22・24	本田 祐士	本学職員	24・25
平井 和也	翻訳者 市内在住	19	本間 由未子	本学初等教育学科 4年	14
平井 幸成	青少年育成都留市民会議会長	26			
平岡 摩梨菜	社会学科現代社会専攻 1年	28	前川 保	社会学科 環境・コミュニティ創造専攻 3年	17
平林 祐子	本学社会学科環境・コミュニティ創造専攻教員	21	前川 未来	英文学科 3年	24
廣井 良徳	本学社会学科	06	前澤 志依	国文学科 1年・国文学科 3年・国文学科 4年	18・23・24・25
広瀬 誠	環境・コミュニティ創造専攻 1年	15	前田 昭彦	本学社会学科教員	05・15
			前田 佳南美	本学初等教育学科 3年	14
深澤 麻夕	比較文化学科 4年	08	前田 恵子	本学初等教育学科 3年・本学研究生	08・09・13
福島 万紀	本学社会学科環境コミュニティ創造専攻教員	27・28	前原 融	本学社会学科環境・コミュニティ創造専攻 3年	16
福永 美奈	都留文科大学大学院 臨床教育実践学専攻	06	牧田 秀昭	福井市至民中学校教諭、福井大学教職大学院客員准教授	15
福元 明梨	国文学科 2年	27	益子 邦子	都留市在住	14
藤本 恵	本学初等教育学科教員	11	増永 弦	京都府の小学 5年生	14
			松岡 勇氣	本学初等教育学科 2年	16
			松島 瞳	初等教育学科 3年	27
			松土 清	本学英文学科特任教授	25
			松野 公紀	社会学科現代社会専攻 2年	17
			松本 孝巳	都留文科大学生活協同組合「下宿問題」小委員会担当理事	07

著 者 一 覧

氏 名	所 属	掲載号	氏 名	所 属	掲載号
					
三浦 宏介	本学社会学科卒業生	08	矢ヶ崎 奈美	本学社会学科 4 年	08
三浦 淳	市内公立中学校教諭	28	保原 樹	本学社会学科卒業生	05 (写真)
三浦 悠	初等教育学科 3 年・初等教育学科 4 年	26・27	八瀬 尾麻美	初等教育学科 3 年	27
水谷 衣里	本学社会学科卒業。東京都立大学大学院。地域交流研究センター・プロジェクトアシスタント	05	柳 映志	初等教育学科 4 年	27
御園生 ゆかり	初等教育学科 4 年	27	梁島 一恵	元都留文科大学児童文化研究部員・現在 1 才 8 ヶ月の子どもの母	10
湊 秋作	ヤマネミュージアム館長、関西学院大学教授	18	矢羽 正子	国際ソロプチミスト—芙蓉・国際ソロプチミスト山梨—芙蓉広報委員会	07・18
源 春風	国文学科 1 年	25	山内 翔太	本学社会学科 3 年	14
三村 隆仁	初等教育学科 3 年	18	山内 利奈	社会学科環境コミュニティ創造専攻 2 年	28
宮城 三里	初等教育学科 4 年	18	山岸 良	環境・コミュニティ創造専攻 1 年	15
宮崎 ここり	初等教育学科 1 年・初等教育学科 4 年	13・18	山口 周	本学比較文化学科 4 年	15
宮崎 高虎	本学社会学科 2 年・本学社会学科環境・コミュニティ創造専攻 3 年	14・17	山口 紗絵子	本学初等教育学科 3 年	14
宮澤 勇気	本学初等教育学科 1 年	16	山口 博史	本学COC推進機構教員	27・28
宮下 ひかる	比較文化学科 2 年	25	山口 美奈子	初等教育学科 4 年	28
宮下 凌瑚	国文学科 2 年	23	山崎 瞳	初等教育学科 3 年	18
宮野 裕太	英文学科 4 年	26	山崎 陽子	初等教育学科 4 年	27
宮原 弓	1991 年に初等教育学科に入學 現在広島県に在住	16	山崎 亘	本学国文学科 4 年	05
ミュージアム都留		01・0304 合併号 (写真)	山下 詠子	本学非常勤講師・東京大学	15
			山下 大輝	環境・コミュニティ創造専攻 1 年	15
村上 彩	初等教育学科 4 年	18	山城 理乃	本学初等教育学科 3 年	14
村上 憲司	禾生第一小学校教諭	10	山田 育与	社会学科 環境・コミュニティ創造専攻 3 年	17
村山 華子	初等教育学科 3 年	22	山田 尚悟	本学社会学科 2 年	14
			山名 花苗	社会学科環境・コミュニティ創造専攻 1 年	22
持田 睦乃	社会学科環境・コミュニティ創造専攻 4 年	23	山本 絵理菜	社会学科 1 年	13
望月 彩乃	大学合唱団団長・初等教育学科 3 年	28	山本 健慈	和歌山大学学長	25
望月 育代	東桂中学校教諭	06 (写真)	山本 安夫	本学図書館館長・物理学者、本学名誉教授	0304 合併号・21
望月 理子	教員	16	山本 由樹恵	社会学科 1 年	13
望月 恵	社会学科環境・コミュニティ創造専攻 2 年	20	山本 芳美	本学比較文化学科教員	10
森 博俊	本学初等教育学科教員・本学教員 障害児教育・センター次長・地域交流研究センター長	01・02・0304 合併号・10	山森 美穂	本学初等教育学科教員	16・18・21・24・26・28
森 由己	高齢者・障害者介護ヘルパー	10			
森嶋 美子	都留市社会福祉協議会地域福祉活動コーディネーター・社会福祉法人都留市社会福祉協議会福祉活動専門員	0304 合併号・15・19・25	横井 佐智子	本学社会学科卒業生	01
森本 晋也	本学社会学科第一期卒業生、一関市教育委員会	21	横澤 佳奈	社会学科 1 年	13
森屋 雅幸	都留市教育委員会 学びのまちづくり課 文化振興担当・都留市教育委員会 生涯学習課 文化振興担当	22・23・24・25・26・27・28	横田 尚子	2008 年度卒業生	23
			横森 隆	本学初等教育学科本学初等教育学科 3 年・専攻科	16・20
			吉岡 沙代	初等教育学科 3 年	27
			吉川 徹	多津衛民芸館長・NPO 法人未来工房もちづき理事長	27
			吉住 典子	本学初等教育学科教員・本学名誉教授	17・21・24
			吉田 耕平	社会学科環境・コミュニティ創造専攻 4 年	25
			吉田 悟	指揮者、神奈川フィルハーモニー管弦楽団	11

氏 名	所 属	掲載号
吉田 晴彦	本学英文学科卒業生・神奈川県 の高校教諭	07
吉野 大地	都留文科大学社会学科環境・ コミュニティ創造専攻3年	21
與畑 幸徳	本学初等教育学科4年	16
依藤 道夫	本学英文学科教員	11
		
若尾 奈津美	英文学科1年	25
湧坂 知晶	社会学科	20
分部 勝規	富士吉田市教育研修所	20
和田 明子	本学名誉教授	09
渡辺 愛	本学文学研究科国文学専攻1年	16
渡邊 和子	放課後子どもプランコー ディネーター	22
渡邊 功資	都留市立都留第二中学校	18
渡辺 豊博	都留文科大学社会学科環境・ コミュニティ創造専攻教員・ NPO法人ブランドワーク三 島事務局長	15・21・22
渡邊 英子	富士吉田市明見小学校教諭	16
渡辺 ふく代	東桂保育園保育士	10
渡辺 史江	東桂小学校教諭、SAT担当	10・14
渡辺 讓	福祉住環境コーディネー ター・都留市在住	12

註・合併号は、他の号と区別するため「0304 合併号」と表記した。(写真)という表記は、写真提供を示す。

*目次および索引のデータ整理：巖岩亜紀

号	特集タイトル (冊子タイトル)
01号	特集：地域交流研究センターの出発
02号	特集：ムササビの住むキャンパス―フィールド・ミュージアムの夢
0304 合併号	特集 1：地域に根ざす教育の創造へ 特集 2：甲斐の文化の香り
05号	特集 1：地域活動とそれを支える人びと 特集 2：まちづくりの活動と大学
06号	特集：「つる子どもまつり」の歴史に学ぶ
07号	特集 1：学生・留学生たちの居住生活 特集 2：卒業論文・修士論文にみる地域研究
08号	特集：フィールド・ミュージアム「自然とともに働いた歴史に学ぶ」
09号	特集：地域で働き人をつなぐ
10号	特集 1：「地域に根ざす」ことと「世界に向き合う」こと 特集 2：動き出した都留市における学生アシスタント・ティーチャー (SAT) 活動
11号	特集 1：地域の自然にかかわる思いを記す フィールド・ミュージアムの担い手たち 特集 2：「まち」こそ文化の交流の舞台 市立図書館・博物館・公民館との地域交流
12号	特集：人と自然をつなぐ
13号	特集：山・里・町をつなぐ実践的環境教育への取組―現代 GP―
14号	特集 1：地域を基盤とした教師養成教育モデルの開発 SAT (学生アシスタントティーチャー) プログラムの取り組み―特色 GP― 特集 2：フィールド・ミュージアムの展開と「現代 GP」(山・里・町をつなぐ実践的環境教育への取り組み)
15号	特集：自然を生かし地域をつくる一環境・コミュニティー創造専攻 (社会学科) がひらくフィールド―
16号	特集：フィールド・ミュージアムと暮らし・教育の思想 大田堯先生と共にする都留フィールド・ミュージアム
17号	特集 1：地域の学校にかかわり教育と研究を問い直す―その実践と思想― 特集 2：あらたな交流を生むシートン生誕 150 周年記念「大哺乳類展」―国立科学博物館 (東京・上野)
18号	特集 1：都留フィールド・ミュージアムの到達を確認し第二ステージを見通す 特集 2：都留フィールド・ミュージアムの歴史と思想を探る
19号	特集 1：学生ボランティア活動の息吹と展開 特集 2：農と山林に向かう
20号	特集：地域・故郷を思う―東日本大震災と私たち―
21号	特集 1：自然との出会いに心を向け暮らしの伝統を見つめ直す 特集 2：地域・故郷を思う―東日本大震災と私たち― (続編)
22号	特集 1：子ども・学校が地域交流を支え促す 特集 2：地域・故郷を思う―東日本大震災と私たち― (その 3)
23号	特集：観察し、聞き取り、表現する―私たち自身の心を動かせること―
24号	特集 1：大学と地域をミュージアムとして市民と共有する 特集 2：地域・故郷を思う―東日本大震災と私たち― (その 5) 特集 3：出会いを生み喜びを引き出す公開講座
25号	特集 1：動き始めた「都留市まちづくり交流センター」 特集 2：9 年目を迎えた地域交流研究センターの講義科目「地域交流」 特集 3：南都留地域教育フォーラムと美術教室
26号	地域交流研究センターの一年を振り返る
27号	地域交流にかかわる実践と思想を深め、新たな一歩を踏み出す
28号	領域をこえた地域交流の実践を創る

(註：26号以降は特集を設けていないため、各号の全体のタイトルを記した)

地域交流研究センターでは本年度も多彩な活動をしてきました。そのなかから、地域教育相談室による第一回公開講座の様子を紹介します。

地域教育相談室・第1回公開講座 子どもが主役の授業づくり ～主体的・対話的で深い学びにつなぐ仕掛け～

平成29年6月2日(金)に、高知大学附属教育総合実践センター准教授の鹿嶋真弓先生(博士・カウンセリング科学)を講師にお迎えして第1回公開講座を開催いたしました。「子どもが主役の授業づくり～主体的・対話的で深い学びにつなぐ仕掛け～」というテーマは関心が高く、学生51名、教育関係者及び一般31名、合計82名の方が集まり、研究者でもあり実践者でもある鹿嶋先生の参加型の講演に熱心に聴き入っていました。その参加者の中から2名の方に感想を書いていただきました。

子どものやる気を出す授業づくりを目指して

■ 金森恵子

次期学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が大きなテーマとして盛り込まれています。このテーマに向けた研究や学習会を取り上げ、実践している学校も多くあります。そのような中、6月上旬、鹿嶋真弓先生が、主体的・対話的で深い学びにつながる「子どもが主役の授業づくり」の仕掛けを紹介してくださいました。会場には、学生さんのほか、地域の小中学校、高校に勤務する教職員、さらには遠方からの教職員の方々も多くいて、本講座の関心の高さを改めて感じました。

本講座ではわずかな時間で、かつアプローチの視点を少し変えるだけで主体的で対話的な学びにつながるヒントを教えてくださいました。

その一つとして、体験を通して考えることが楽しくなるウォーミングアップが紹介されました。それは「ひらめき体験教室」というものでした。発想力と思考力を問う「なぜ」解きに少人数グループで挑戦するもので、学生さんや教職員を含めたグループで「なぜ」解きに挑戦していききました。「なぜ」が解けるたびに大きな歓声が上がリ、いつのまにか会場中の参加者が「なぜ」解きに夢中になっていました。鹿嶋先生は「仲間とかかわりながら脳をフル活用し、なぜを解いていく喜びや達成感を味わうことができる、考え続ける、考え抜く楽しさを体験できる、間違いを恐れず試行錯誤することを体験でき

る。」と話されました。このことは、他者との協働による対話的な学び、課題発見・解決を念頭に置いた深い学び、ふり返りを次につなげる主体的な学びとなり、学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」に共通する視点でありました。教育現場でもひらめき体験を導入することによって、教科の授業でも同じ体験ができるヒントを教えてくださいましたので、積極的に取り入れ、子どもたちのやる気を出す授業づくりをめざしていきたいという思いを強くしました。

まさに本講座では、少人数グループの共同作業で喜び合い励まし合いが自然に起こり、対話的な活動につながるということについて体験を通して学ぶことができました。学校現場の喫緊の課題を取り上げていただき、明日からの実践につながる内容で大変ありがたく思いました。ありがとうございました。

(かなもり けいこ・大月市立大月東小学校)



子どもたちの学びの意欲を高めるために

■ 富田早織

学力を培っていく中で最も大切なのは、学習者自身の学習意欲といっても過言ではありません。教員を目指す学生も、どうすれば子どもたちの学ぶ意欲を掻き立てる授業を実践することができるのか、を一つのテーマにしながら学んでいます。今回の講演会では、鹿嶋先生から、そんな疑問に対する重要なヒントを教えてくださいました。

教育関係の講義を受けていると、「教員は教えすぎてしまう」という言葉を何度も耳にします。教員が子どもたちを指導する際に、つついヒントを出しすぎてしまうのです。私自身、もしも自分が教える立場になったとき、子どもたちに理解してほしい一心で、口出ししすぎてしまうような気がします。

しかし、お話の中で鹿嶋先生は、このことこそが子どもたちから気づきを奪ってしまう行為だとおっしゃいました。確かに、子どもたちにたくさんのヒントを与えることで、問いに正解すれば、教員も、子どもたちも満足します。しかし、これは子どもたちの疑問や気づきを奪い、作業をとめてしまうことになりかねないはたらきかけになります。もちろん、その場限りの達成感をもたらされますが、もっと学びたい、という子どもの意欲を掻き立てるまでには至らないでしょう。では、どうすればよいのか。鹿嶋先生は「子どもたちの不思議の種となるような、思考の深まる問いかけをし、教員は待つこと」

が大事であるとお話ししてくださいました。教員は多くを語らず、子どもたちが興味を抱かずにはいられないような謎を投げかけることで、子どもたち自身から「なぜ」「どうして」という更なる疑問を引き出し、考えさせる……。確かに、自分の力で問いを生み出せば、子どもたちの「もっと知りたい!」という思いは高まりますし、問題にも最後まで納得をもって取り組むことができます。教員の対応の工夫一つによって、活発で能動的な学びが可能になることを知り、目から鱗が落ちる思いでした。

今回の講演会で、たくさんの貴重なお話を聞かせていただきましたが、その全てから「学ぶ子どもの力を信じる」という先生の強く、熱い思いが感じられました。今回のお話を胸に、私自身が子どもたちの不思議の種を咲かせる人間になれるよう、学び続けていきたいと思えます。

(とみだ さおり・国文学科3年)

●●編集後記●●

地域交流研究センターは、地域との共同的研究・教育や連携・協力した活動を進めるための本学の拠点として2003年に創設され、今日に至っています。この間、大学の様々な資源を活用しながら地域と向き合い、地域に根ざした地道な活動を推進してきました。センター発足当時から一貫して変わらない役割は、広い視野と長い目で見て大学と地域交流のあり方を考えてゆくことです。そのためには時間をかけて地域の人々と関わったり、暮らしや環境への理解を深めながら継続的に交流を進めることが大切です。

『地域交流センター通信』は、このセンターの地道な15年の歩みの云わば、伝承者です。都留市をはじめ大学周辺地域にセンターの活動内容を広く発信し、読者に本学をより身近に感じて頂く大切な役割を担ってきました。センター長に就任して間もない私にセンターがこれまで築き上げてきたことをそっと教えてくれたのが、機関誌『地域交流センター通信』でした。

読み応えがあって、毎号保存版に値する質の高い記事を支えてきたのは、地域に直接赴き、現場に身をおいて考える先人の教えに負うところがあることを改めて学びました。

本学が今春より2学部・6学科体制となるのを機に、センターではこれまで蓄積してきた地域の情報や人間関係を支えにして、本学の多様な学科構成を横断的にかつ幅広い領域を扱いながら新たな第一歩を踏み出したいと考えております。それに伴い、『地域交流センター通信』は本号をもって最終号となります。毎号楽しみにされていた皆様には大変感謝しております。

今後はその使命を本学のホームページなどと連携しながら、新たな形で発信し、皆さまにより親しんで頂けるものをご提供してゆきたいと考えております。

最後に、ご多忙の中、執筆・編集作業に携わって頂いた北垣憲仁先生をはじめ、原稿依頼に快く応えてくださった教職員の皆さま、関係各位に心からお礼申し上げます。

(地域交流研究センター長 竹下勝雄)



18.2.12.
[Signature]

絵・成瀬洋平 (本学卒業生)